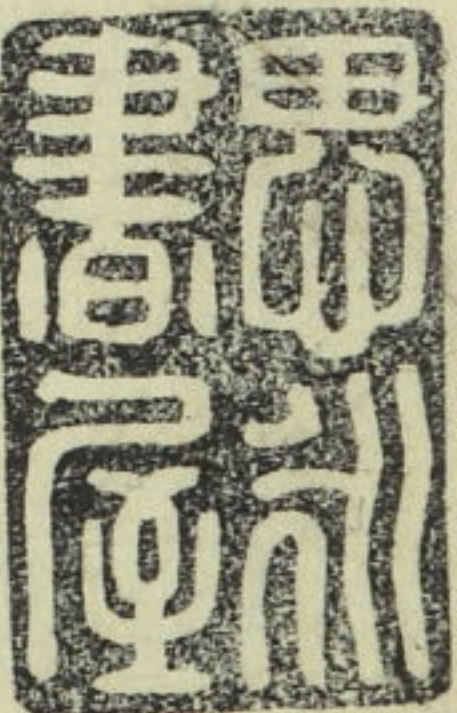
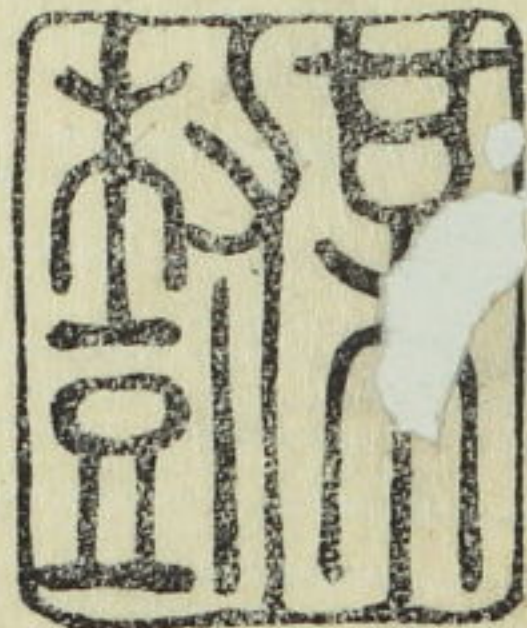
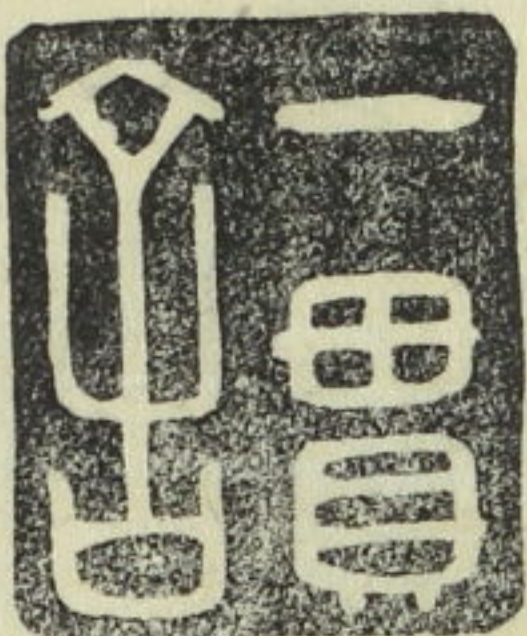


氣通山陰



醉月集

尾張逸人述



醉月集叙



身園醉月集叙

集山集山集山

流子日月のか



醉月



心如止水
如止水乎

梅搖軒逸人

自叙并出



四十年

年壽法

月比

月年産連



梅樹軒逸人



猿啼
松飾環
跡能
見元番
柔糸



思
逸人

道人



今世ふらふ

木石の

色も

あ

し



あはれぬ

美草

杉のあま

みちのね



秋波日能傾幾

安志鳩乃聲耳

梅樹逸人



夕多也人如夢

梅如入梅朗



精舎記

御年見留

秋水色残

可奈

龍宮



山 嶺 坊 八

秋 色



まのふとまなりの
千夕書何

八月乃

鳥の
行来戸

岩
清水

あり
碇
旧



志
乃
松
本
夕

江
野
志

江

浪華

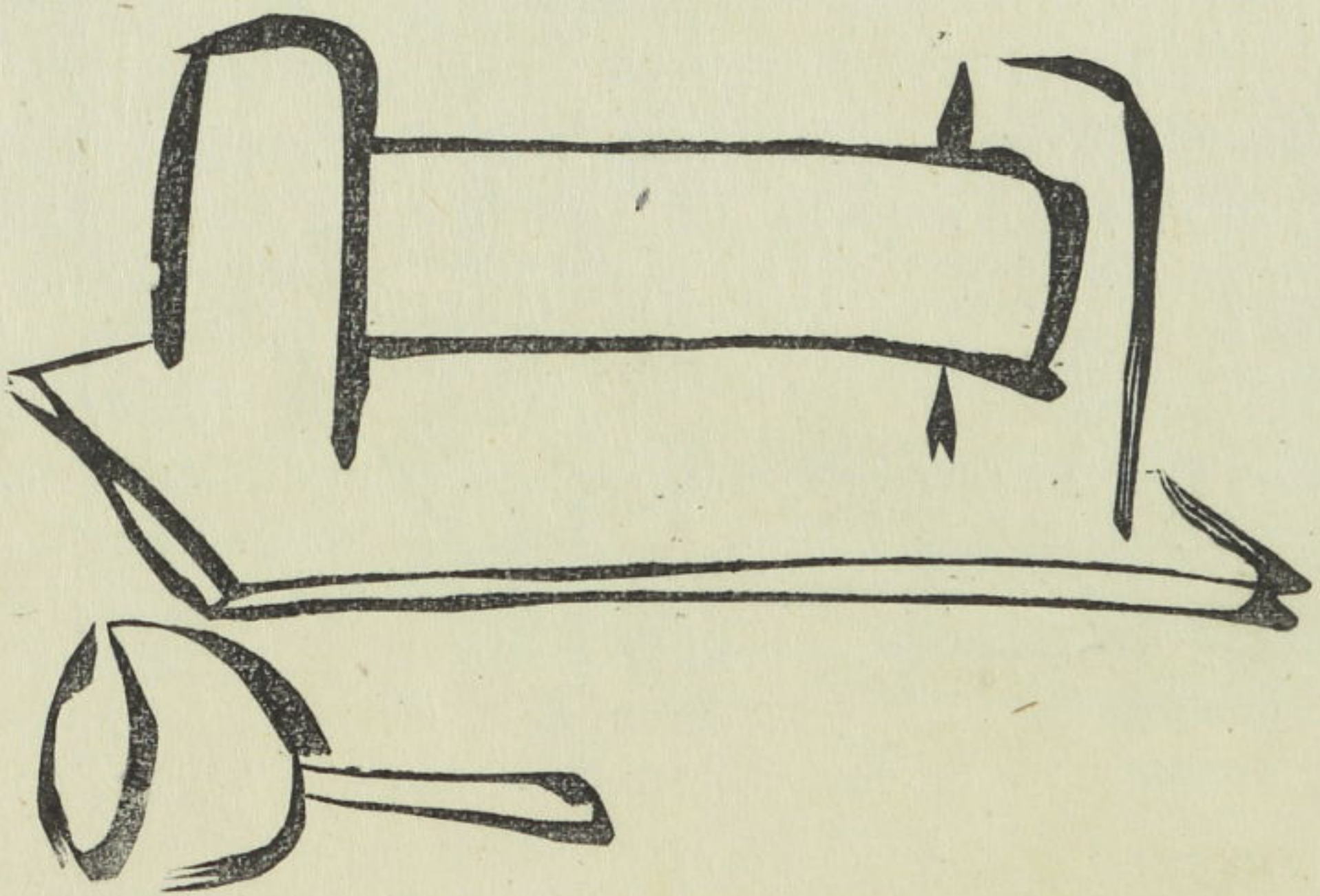
三
津
人

仕舞

松原

可月

可月



魂相也

侍

侍

西米

且流

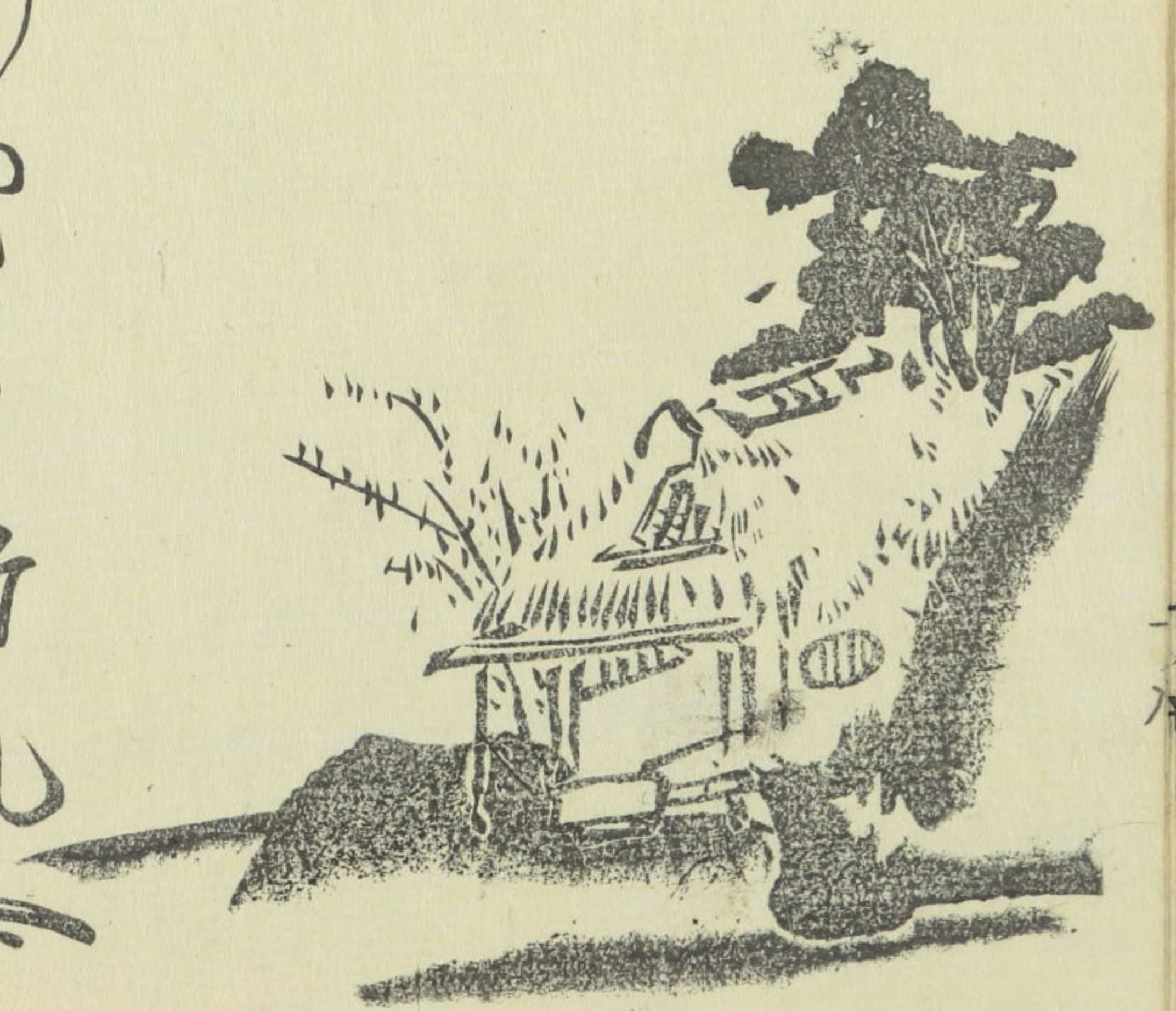


半分

半分

石

竹



礼多

採

芝



英仙



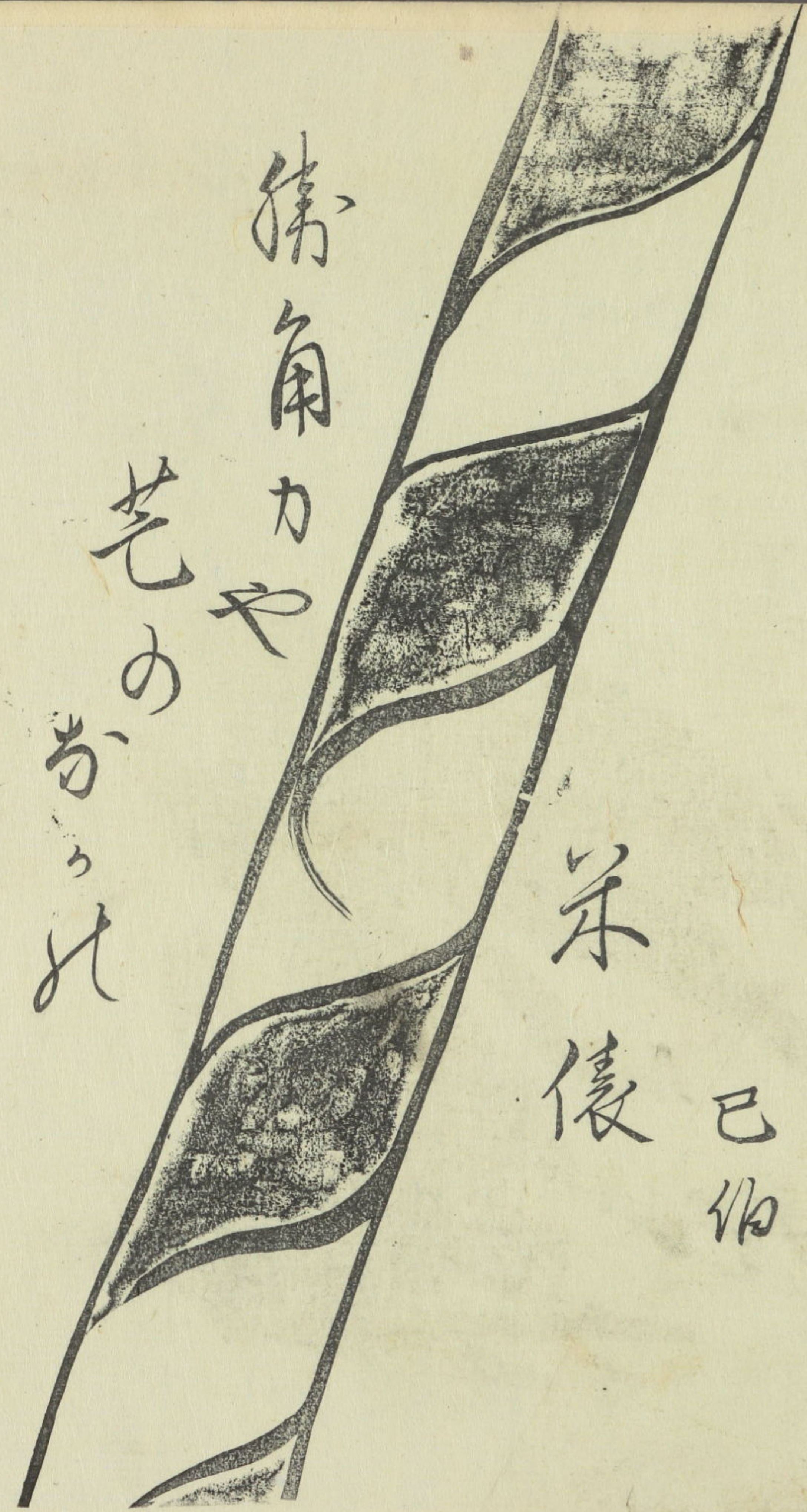
雲々 空の

降りのよ

— 雲

秋の雨

三カハ
月 嶺



猪角力也

花の

あられ

采儀

巳伯

一

水澆石上花

後入

女郎花



氏新詠

秋暖多

風吹如

日

赤くは利

花本



穂すまき

二の月

えしぬの

か

かん



アハウミ

志



月

あけの葉の花

三井寺

やきり

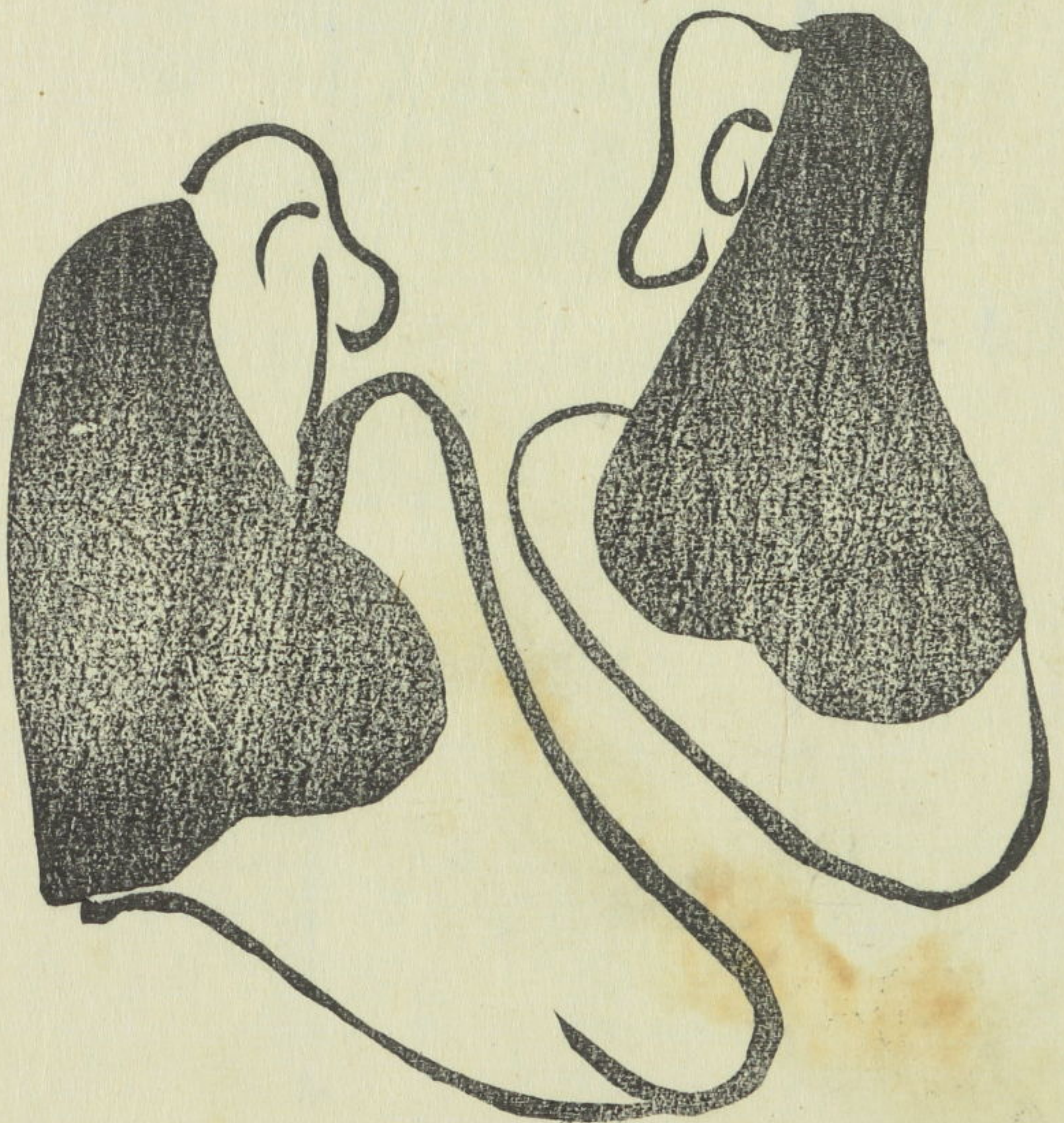
鏡子

秋乃

声

アハウミ

喜雄



名月

ひえ



しん

平家

解書



二

一



杞
中
之
樂

為
此
地
之
心

古
之
地
也

法

榮
人

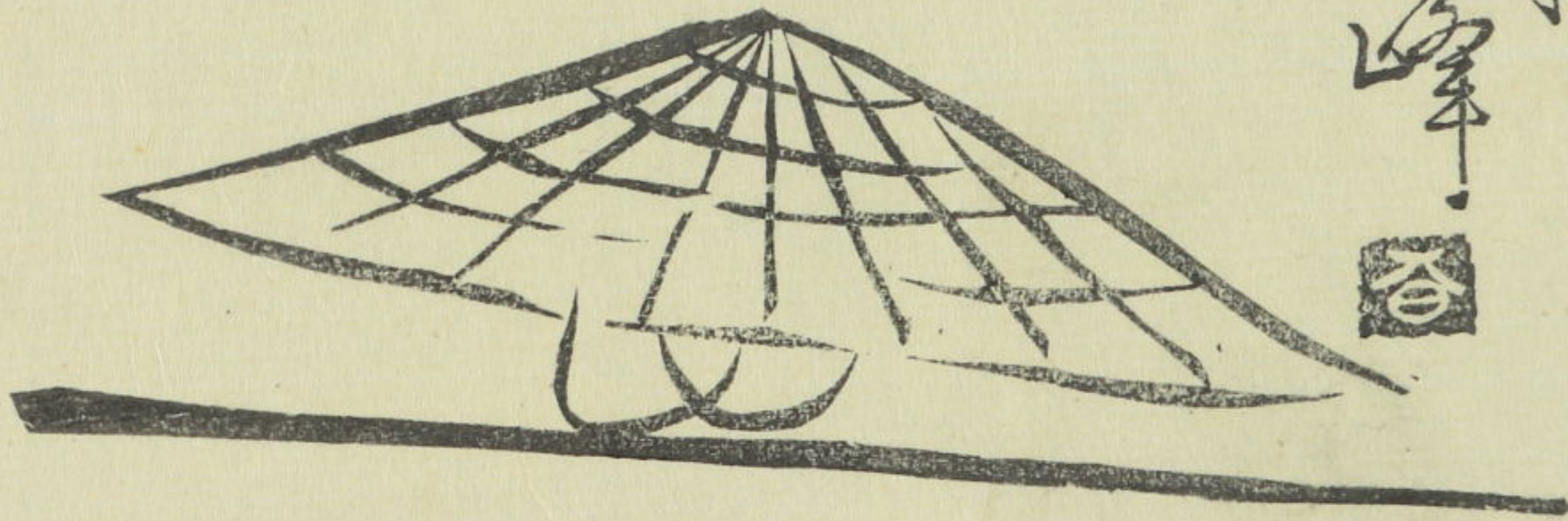


烟
心
之
樂
也

第
二
十
四

湖
東

有
峰



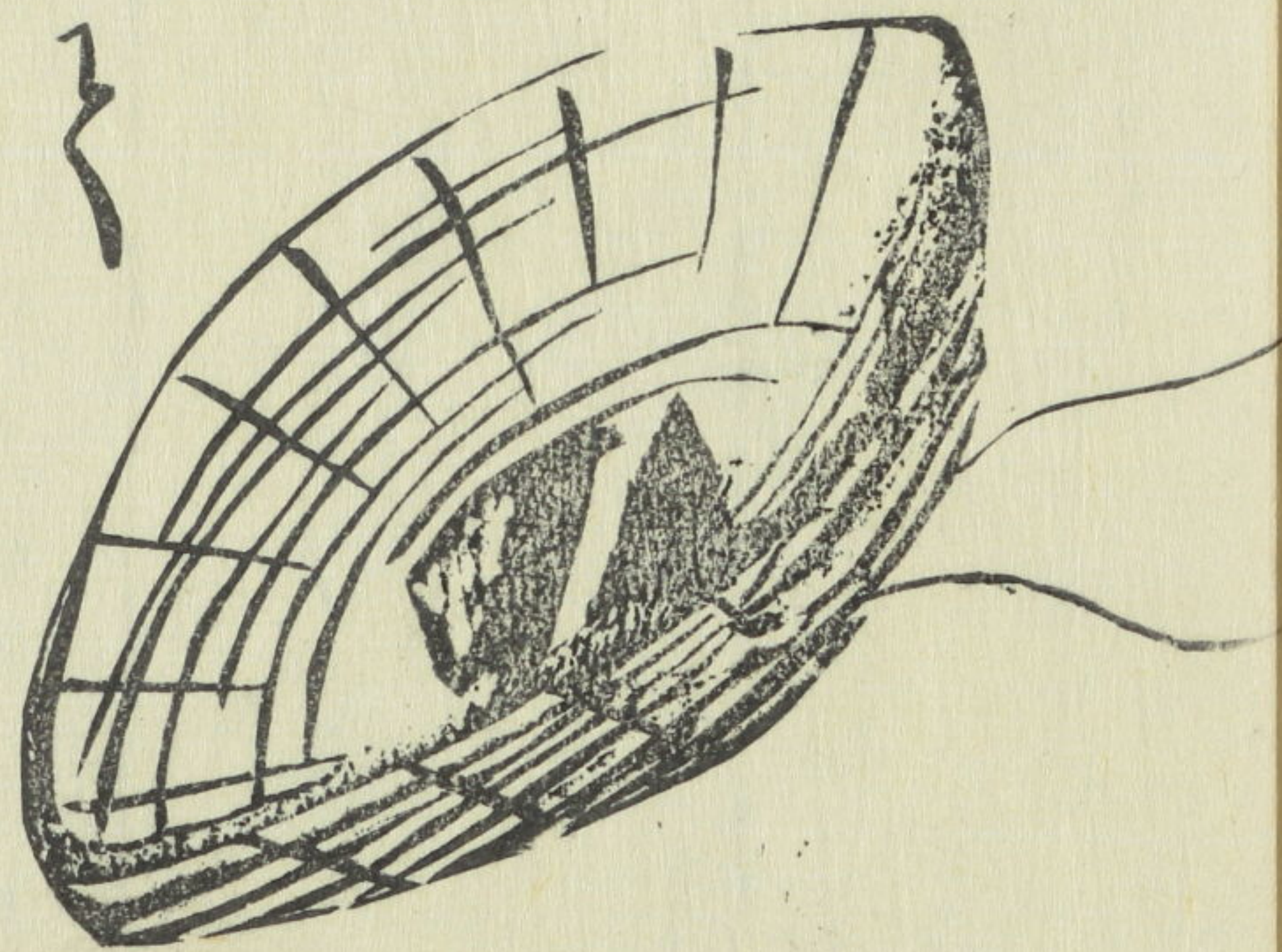
煤の竹立

婦る花

山より花

蟋蟀

一紅



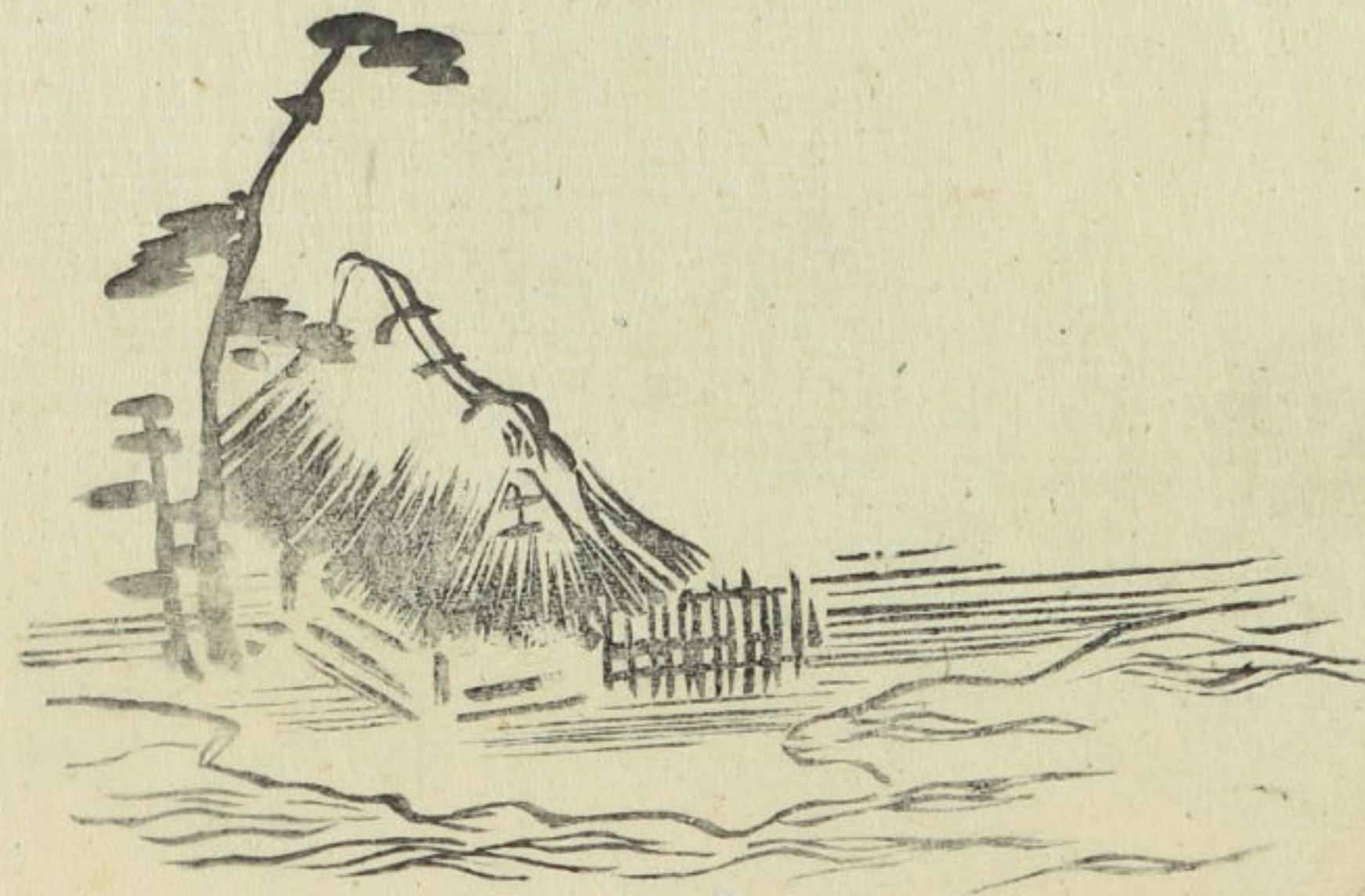
山崎の

山崎の

山崎の

山崎の

山崎の



稻

妻也

如紅色之類

湖南
還古

一
重垣



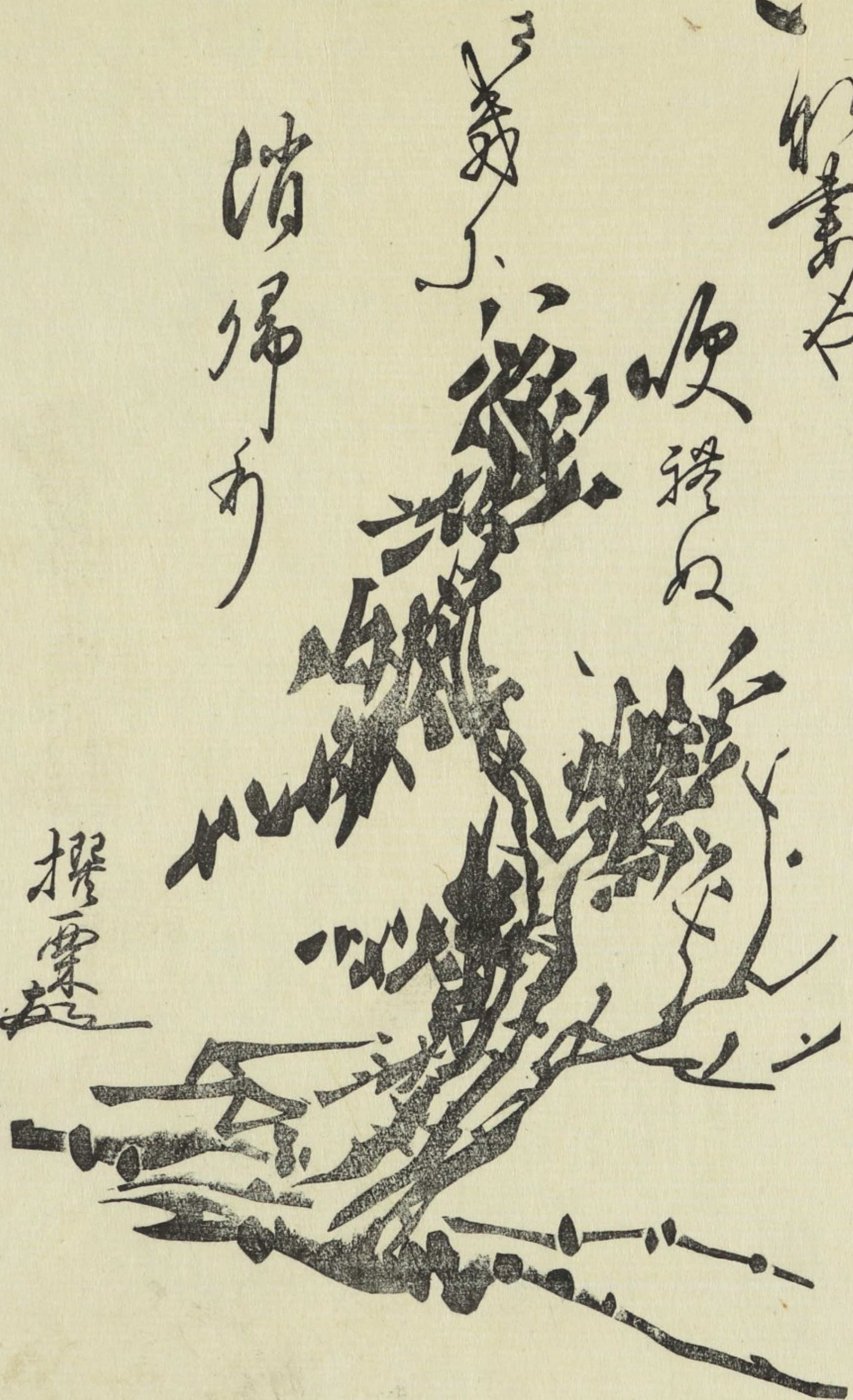
一
好書也

收
終也

消
歸也

擢
粟也

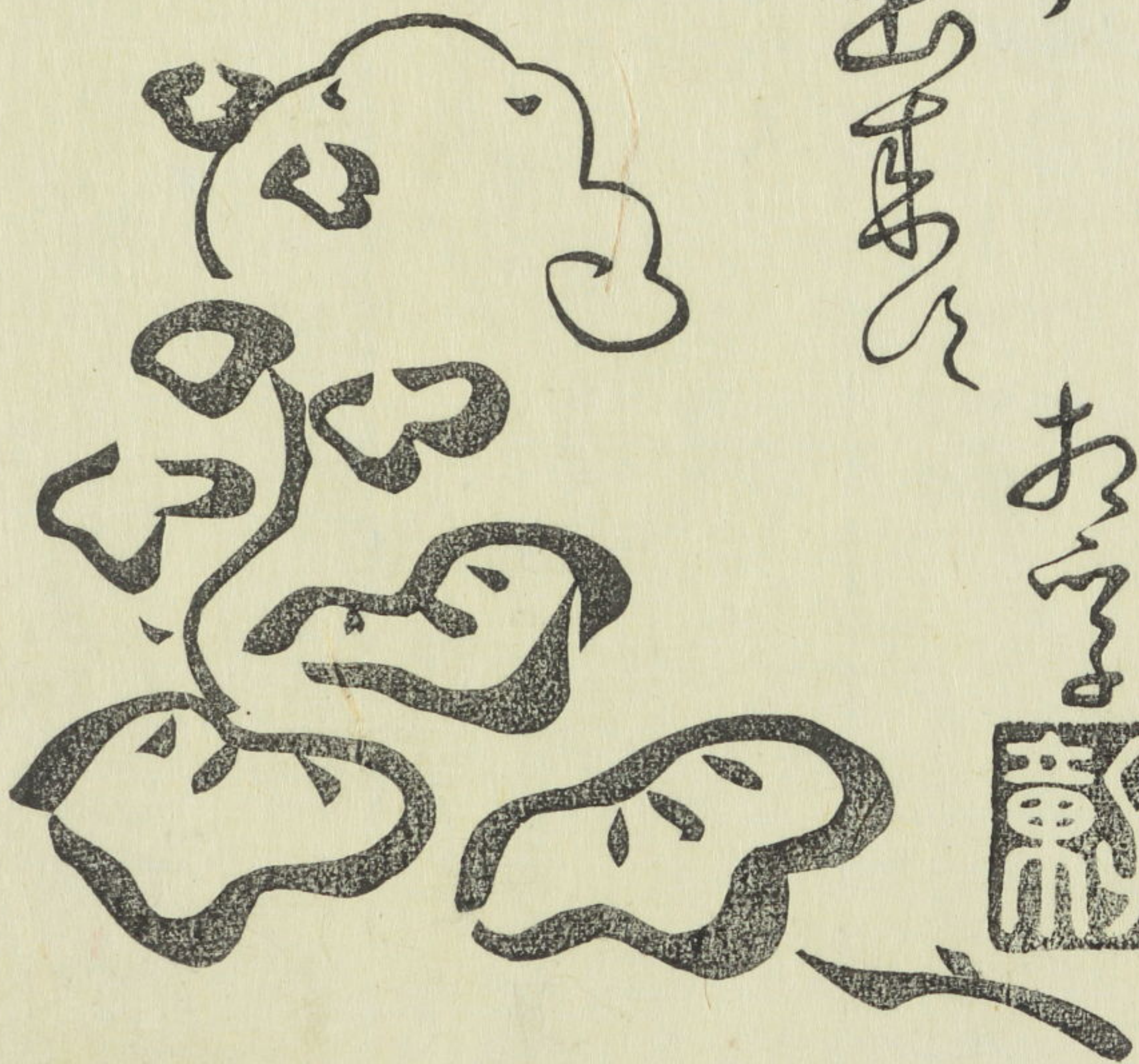
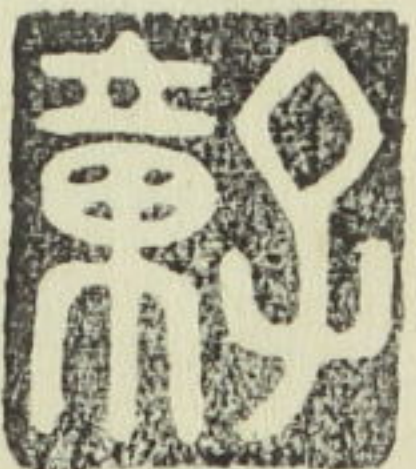
一
子六



ふくとしり
津あも出あま
この者

櫻玄庫

あま



汐をわ

月のむさしめ

秋めそ

大坂

津あま



楚堂写



秋

秋の夜

秋の夜

子供

秋の夜

秋の夜

秋の夜

秋の夜

秋の夜

秋の夜

秋の夜

秋の夜

秋の夜



庭

山

自画賛

夕

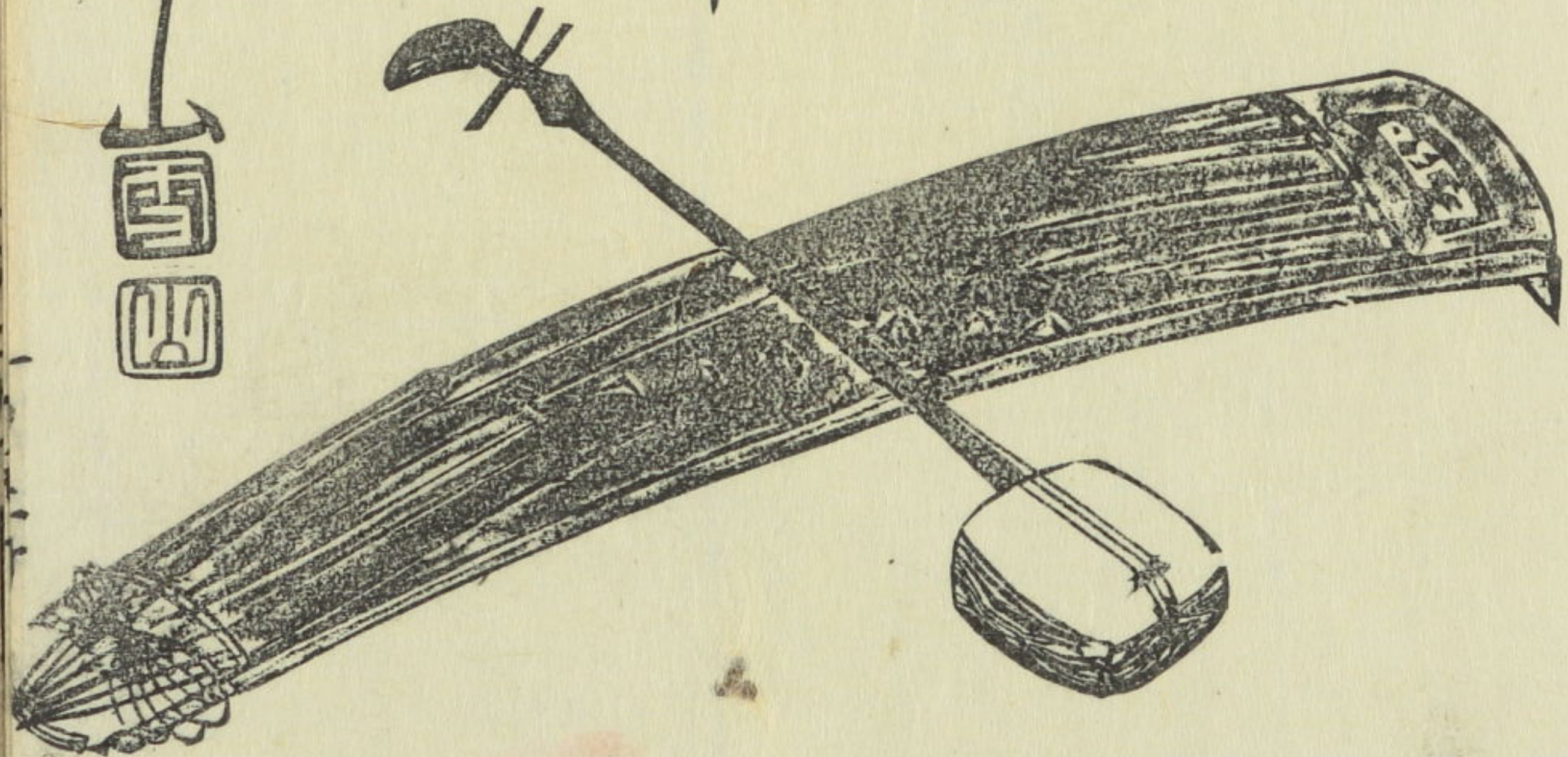
後の

月

猫

浪花

雪



新米

葉

自然

田喜護物 謎字





きのこ馬
 子
 子
 子

十二
 子
 子

二七

子
 子
 子
 子



大洋
 解
 鷗
 齋

一八

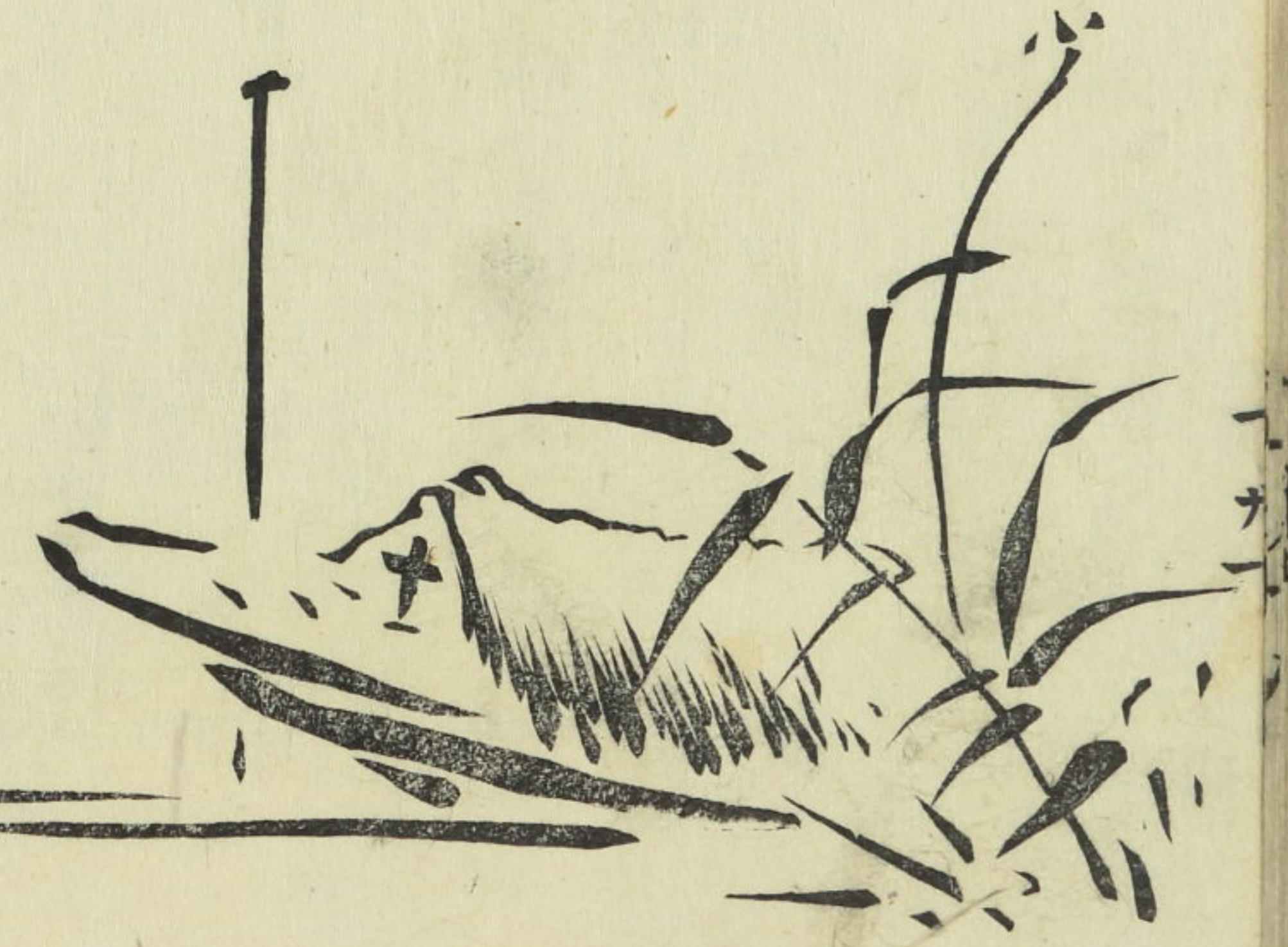
常春
圖

しんせう

しんせう

しんせう

しんせう



しんせう

しんせう

しんせう

しんせう

しんせう



朝良子

名鳥の

尾

坊ぬる

伊勢

其心



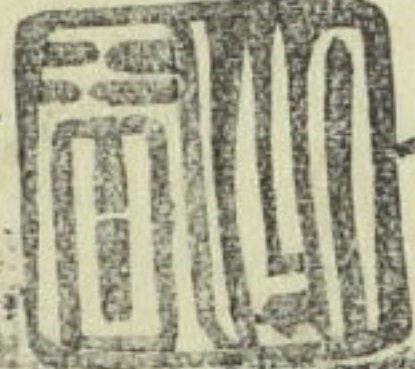
介目を

打かす

流れ

うま

吾心



明月也

吟也

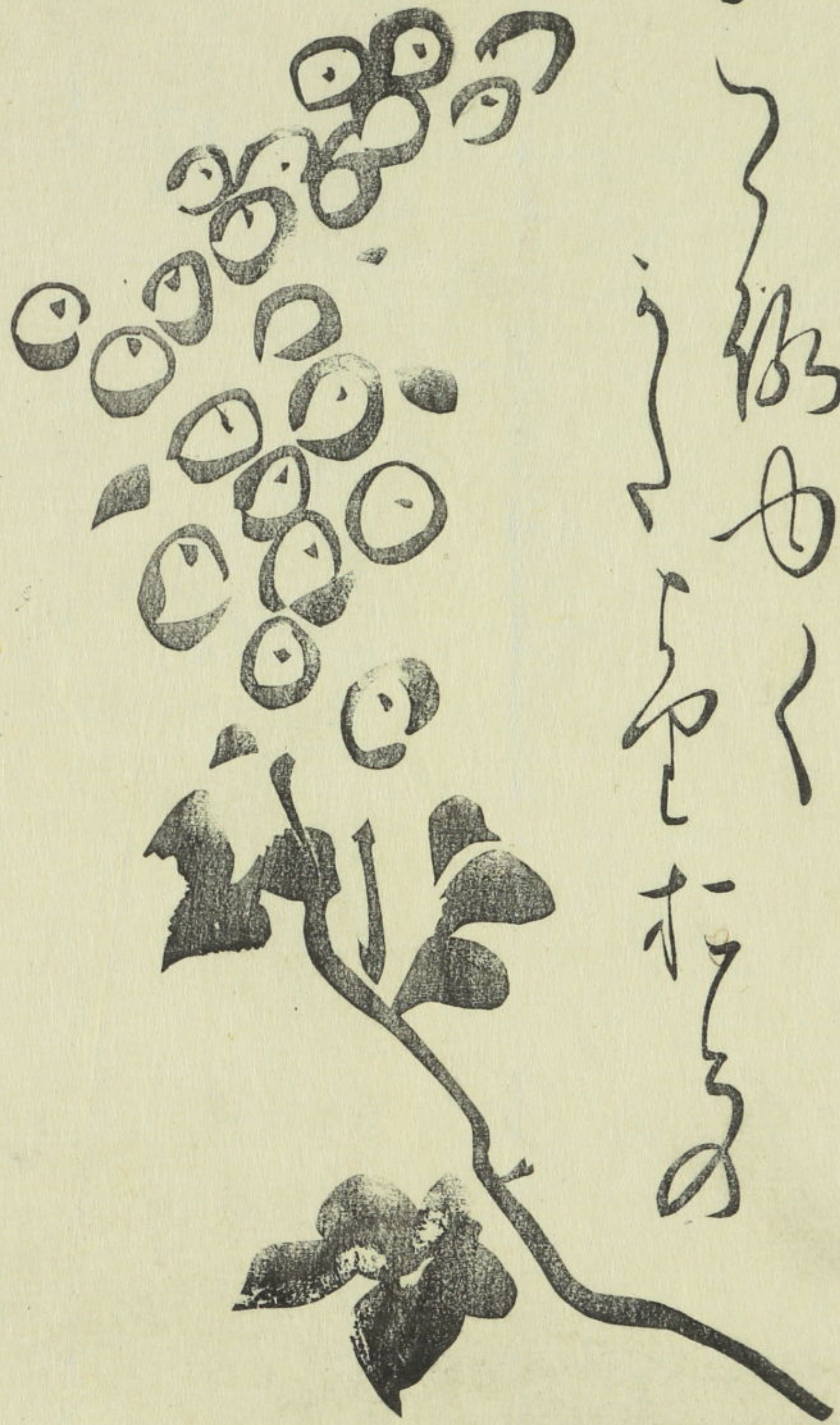
山

一人り

松



いづれゆく
いづれゆく



きりぎりすの
山

十一

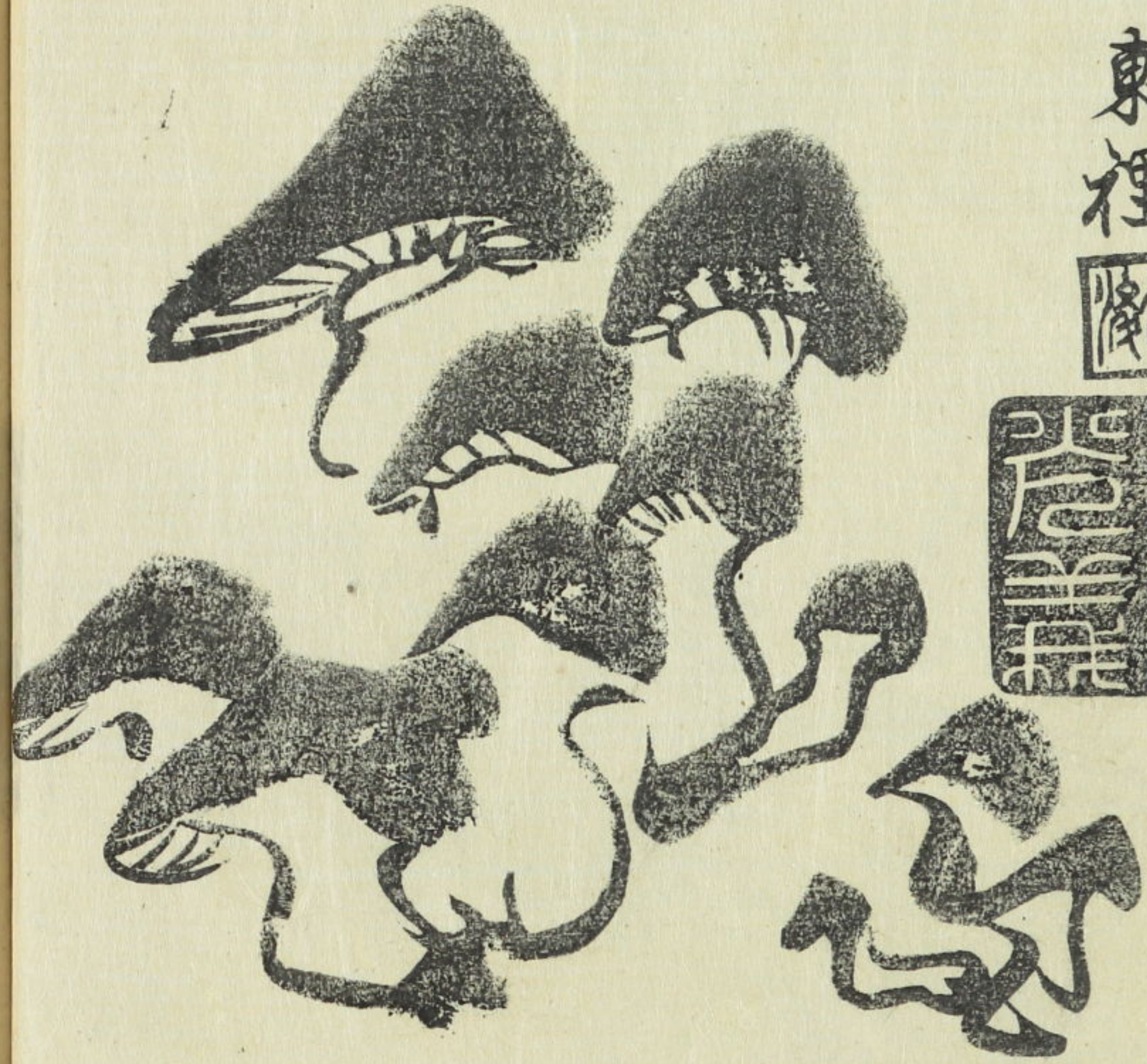


花子あまの

松の

秋の

洛東裡



柚味

みこ

杯

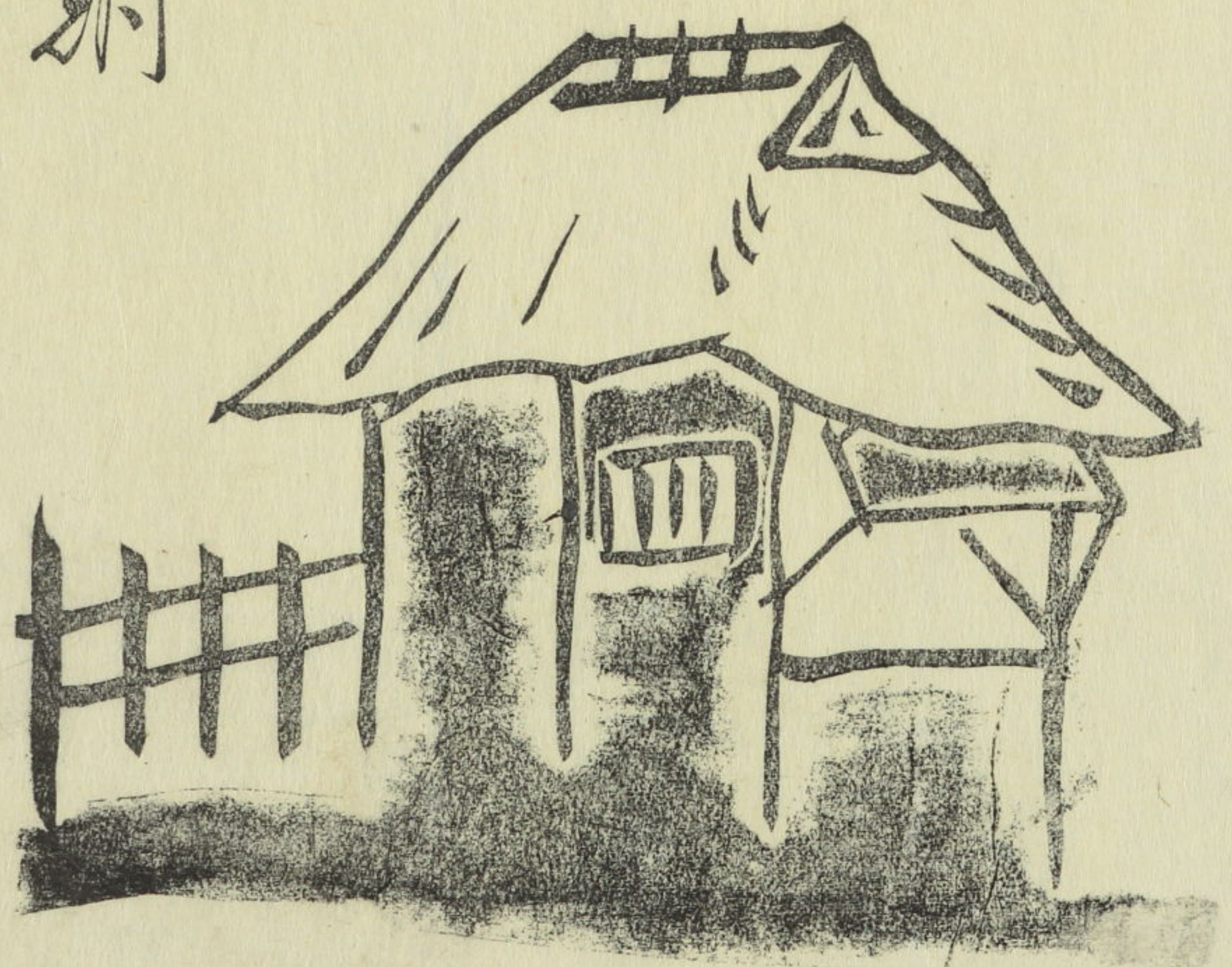
芳

後の夕

峨



常のつね
 くらりのつね
 秋のむね
 湖南
 湖湖



一七六

朝のつね

常のつね
 こや
 湖



里王

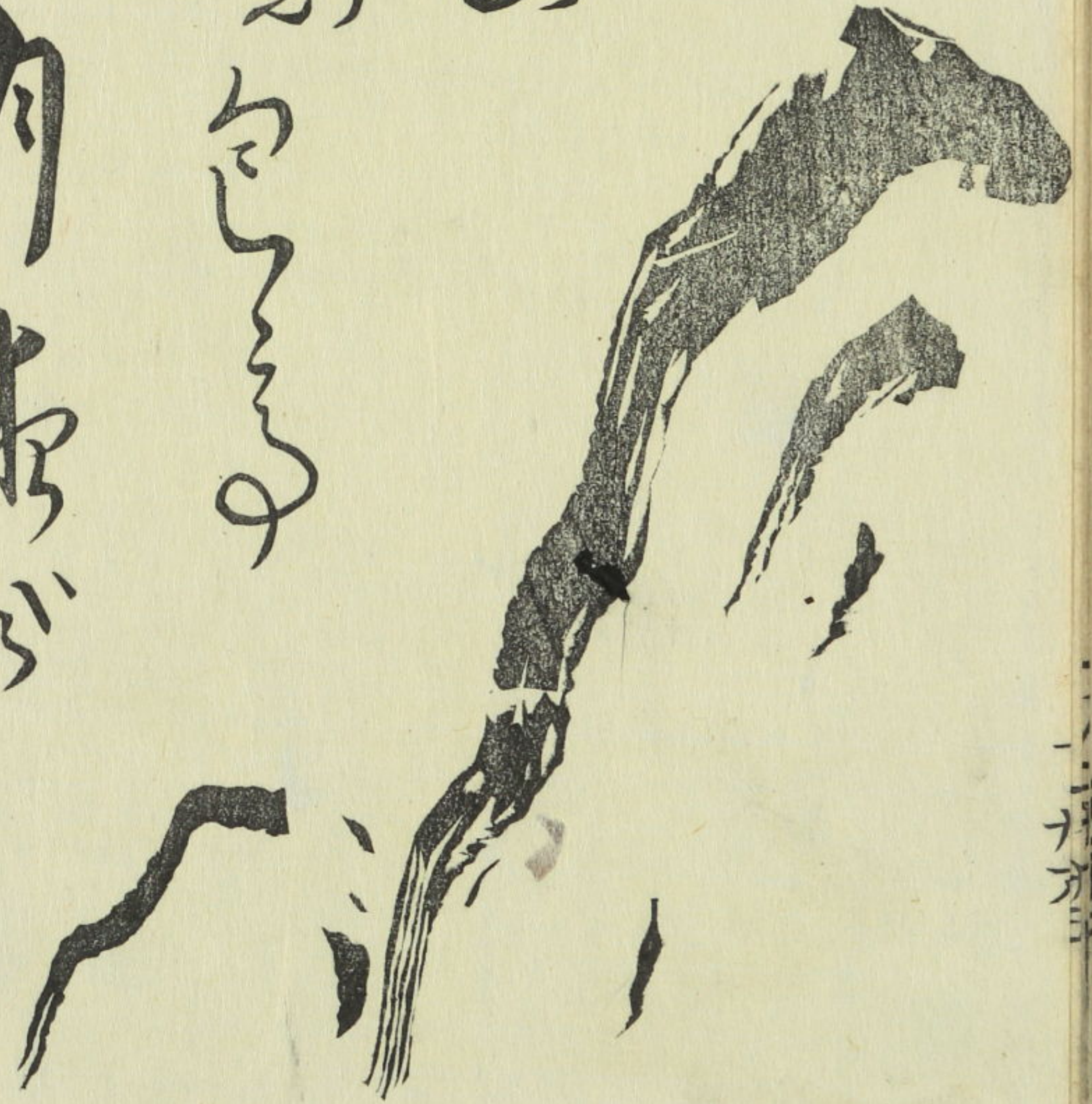
一七六

東山の

新ふ
白しら

月
新ふ

三
朝



新ふ

新ふ

多
も

新ふ



秋
乃
新ふ

大坂
凡
大





秋情
海村雨多
多ふ人形

張英

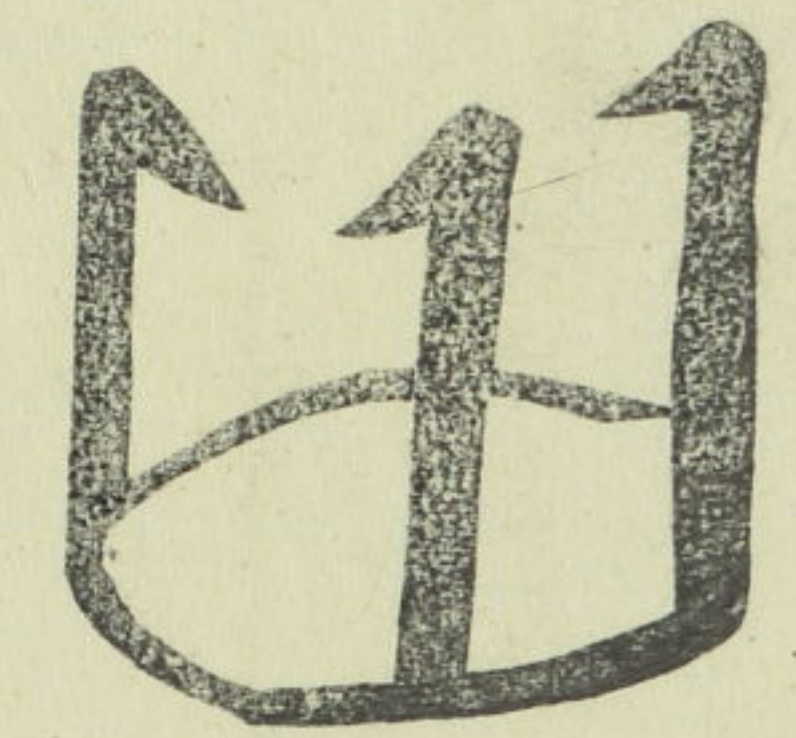


此
は
一
也

の
お
う
庭
一

あ
し
ま
う
な

の
か



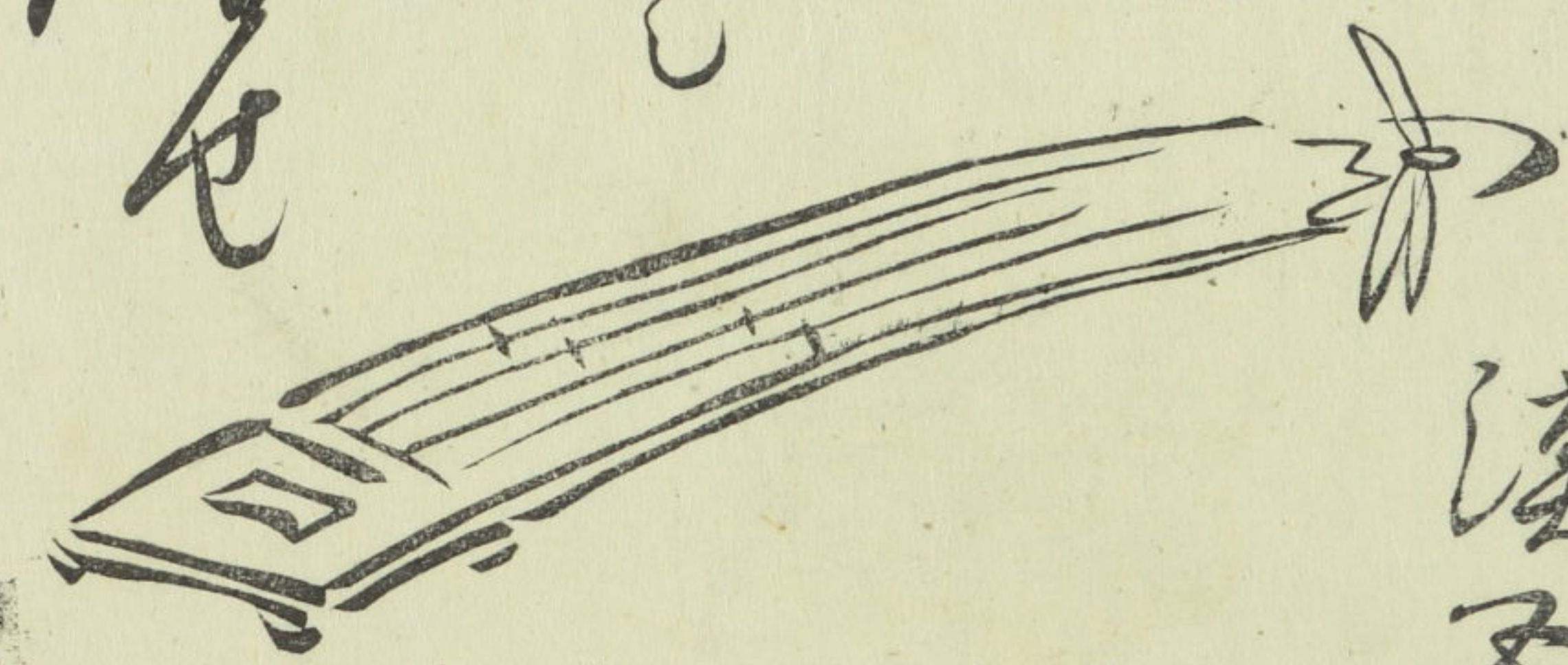
一
六
七

洛
 この名
 このほろ
 ちとせよ
 みたせよ



一七九

漢子
 子
 子
 子



一八〇

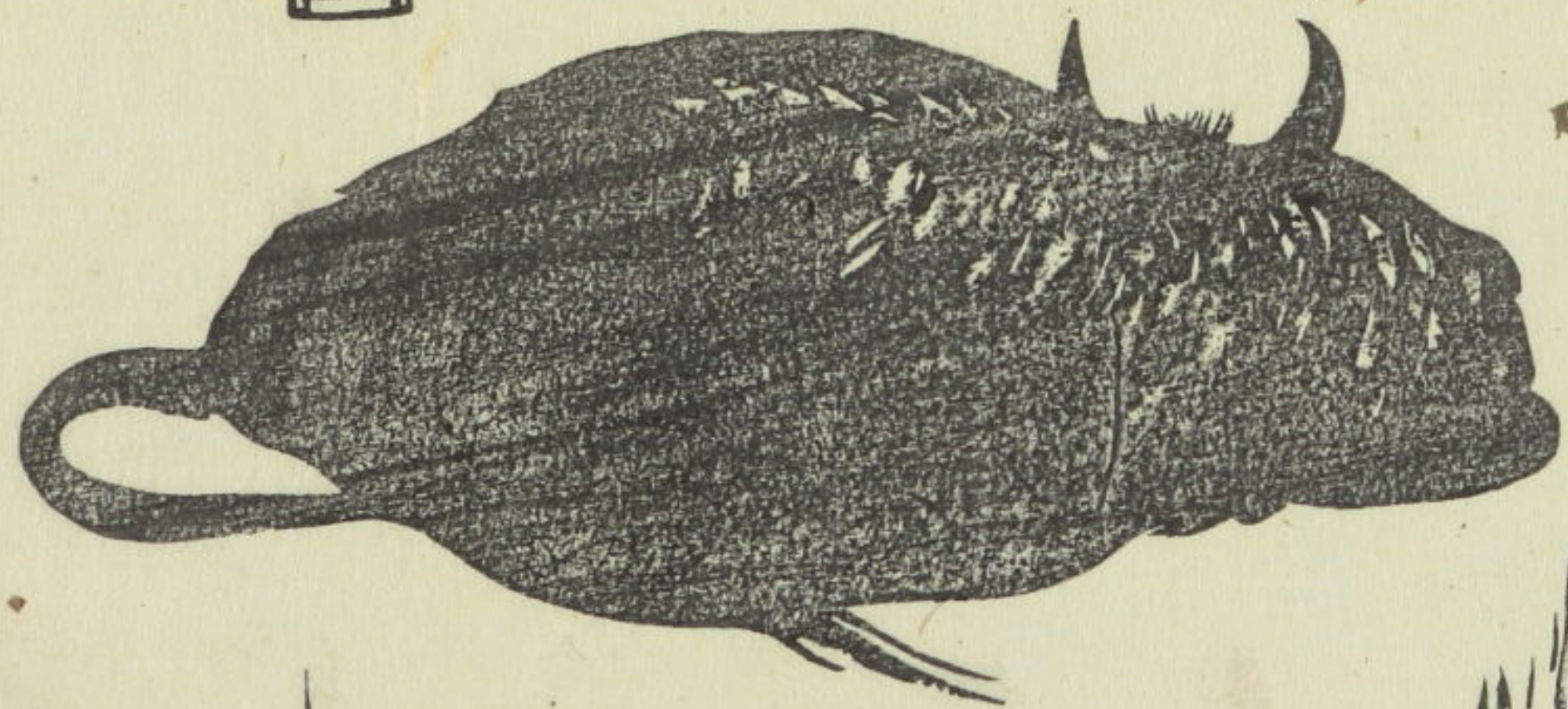
女
雨
子

筋
か
ら
入

鳥
か
ら
入

丹
丸

毒
良
田
田



之
日
月

子
か
ら
入

の
筋
か
ら
入

毒
良
田
田



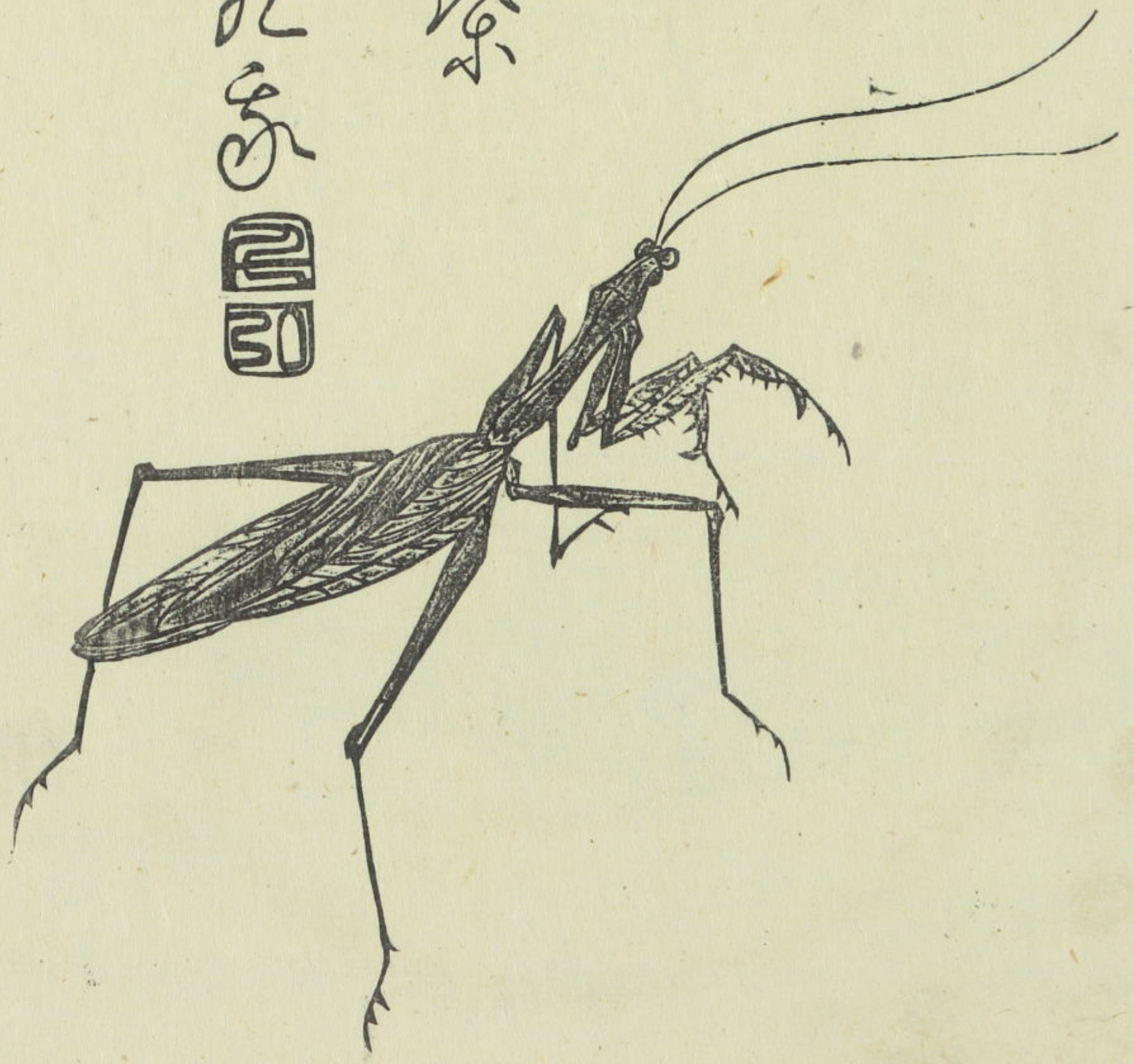
菊園

を

冷

桐一

斗丸



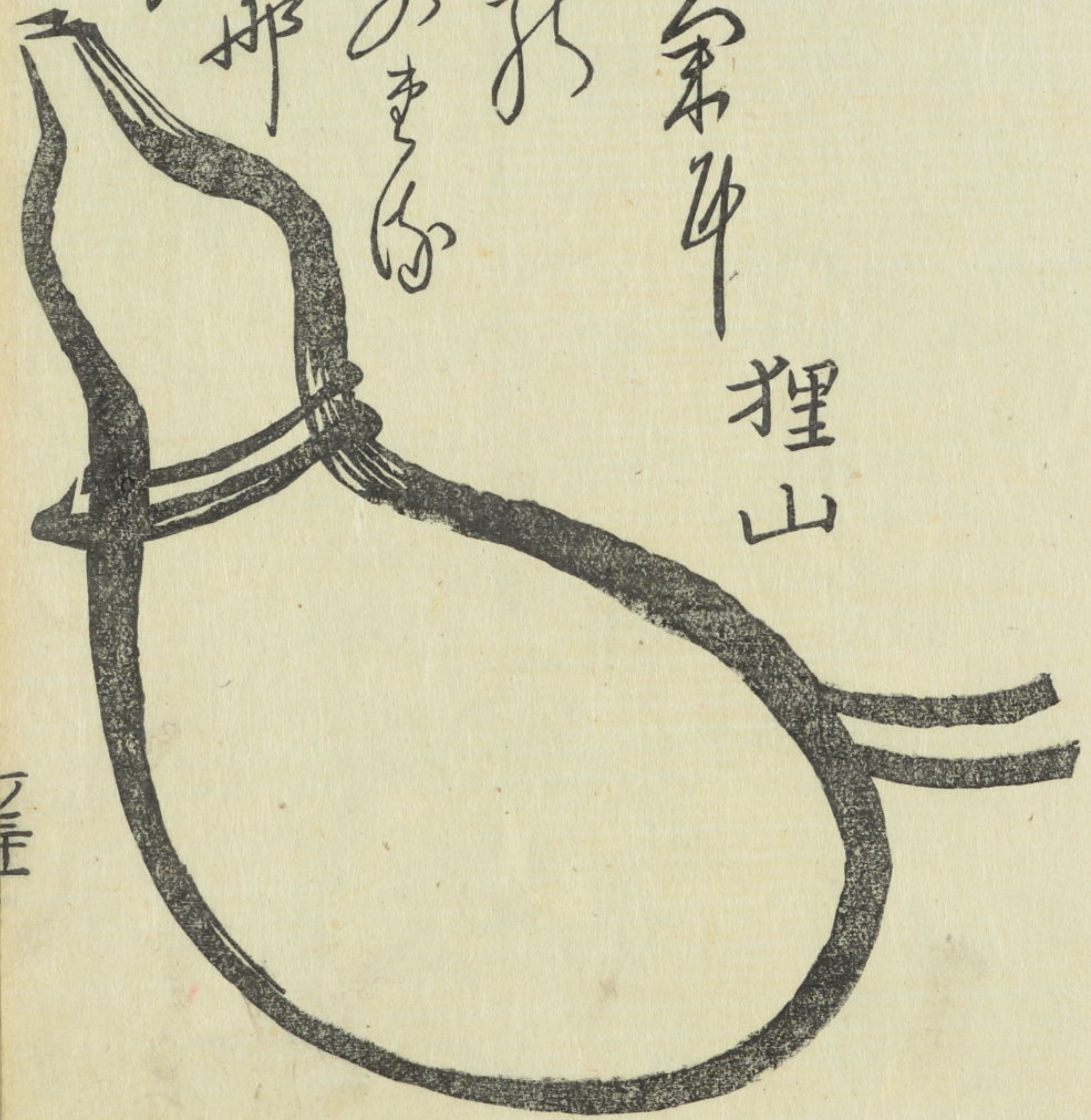
狸山

心

月

海

夕



夕

山
松
花

大坂

素
色
印



山



花
の
葉

花



花
の
葉

花

桂



山

後林の事

ふし

さき

今日乃月

三



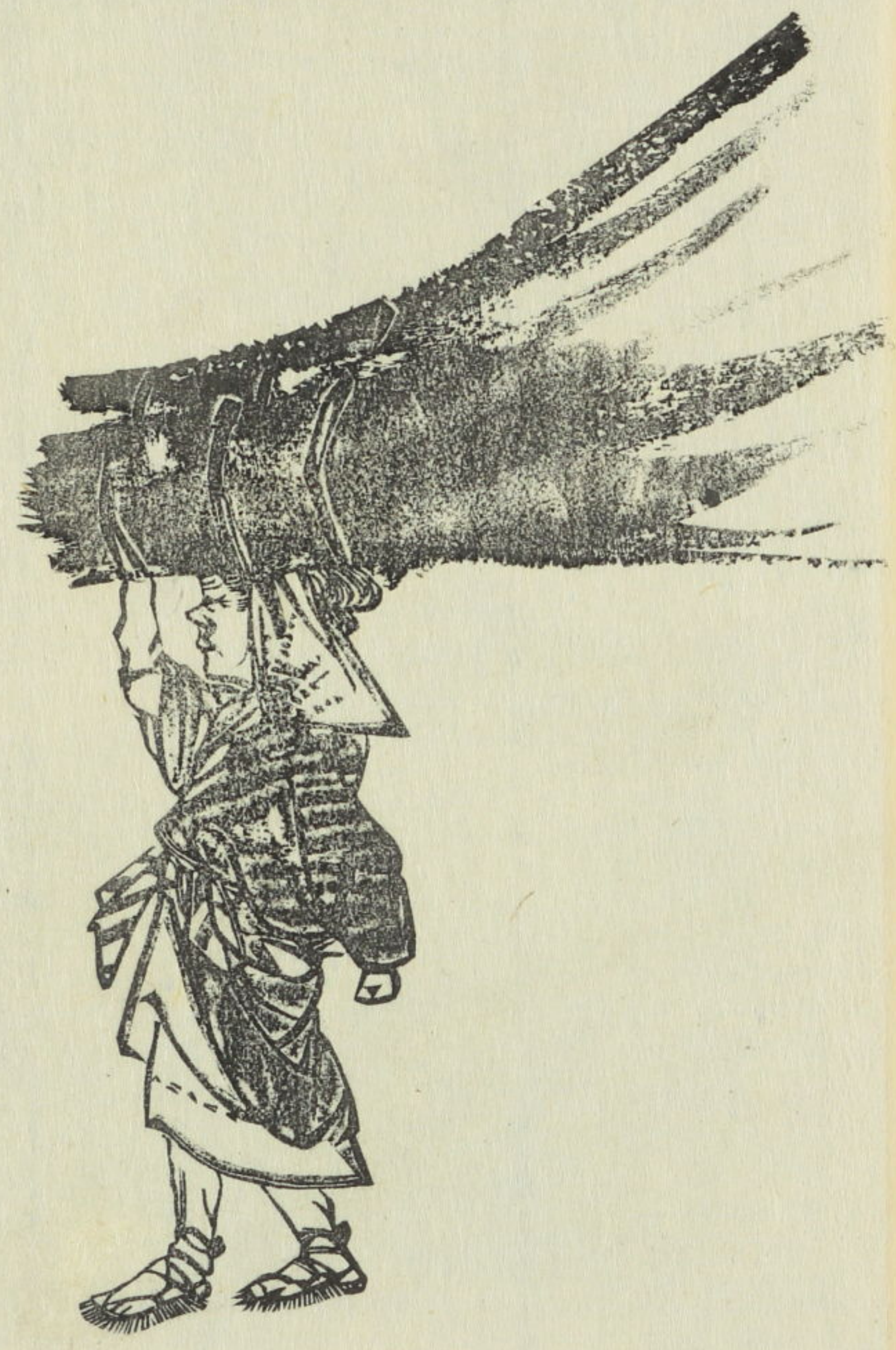
林

おれは活

き

討

如好

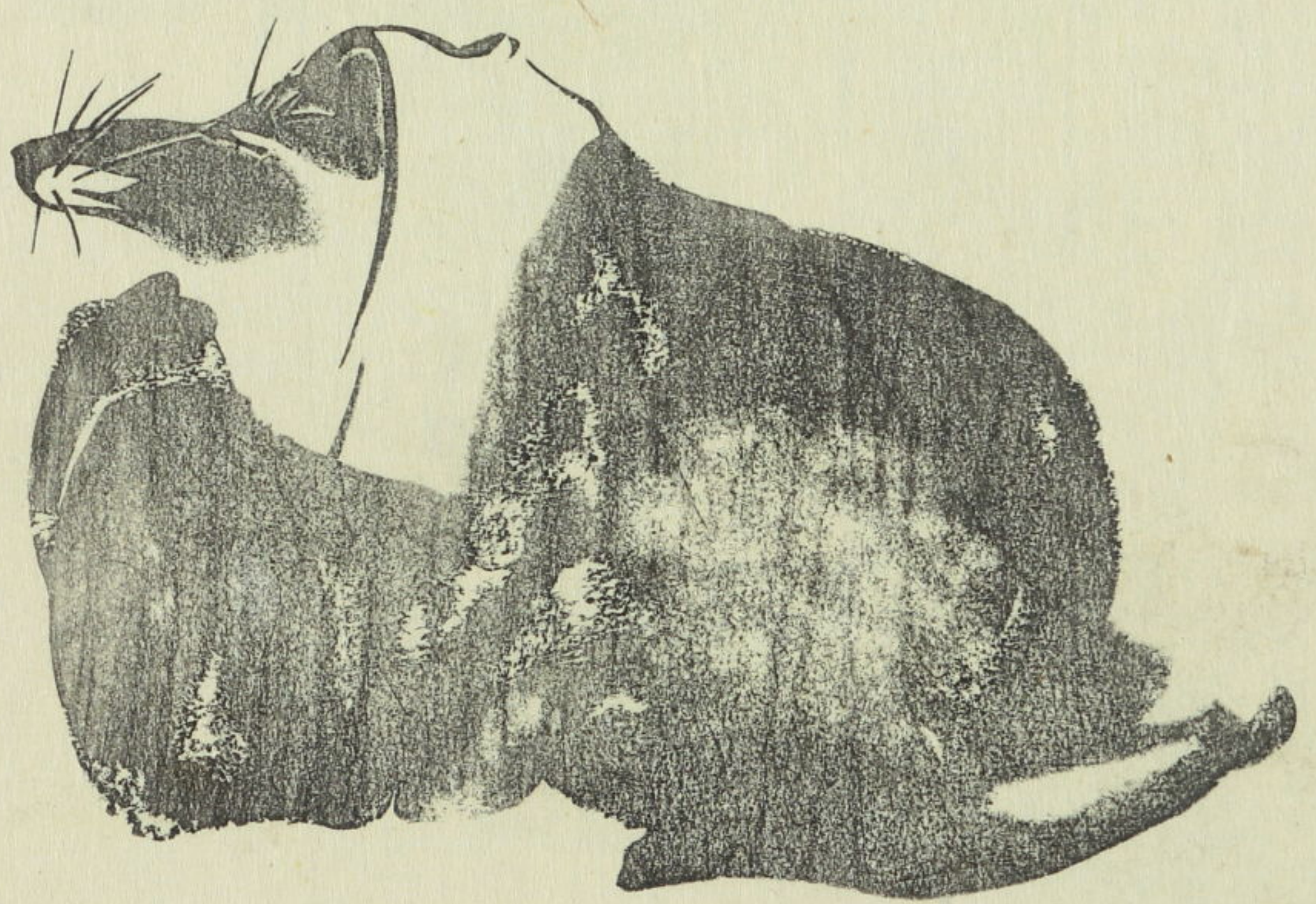


将座中

江

毛類

後
毛類



一

こちたま

あれき

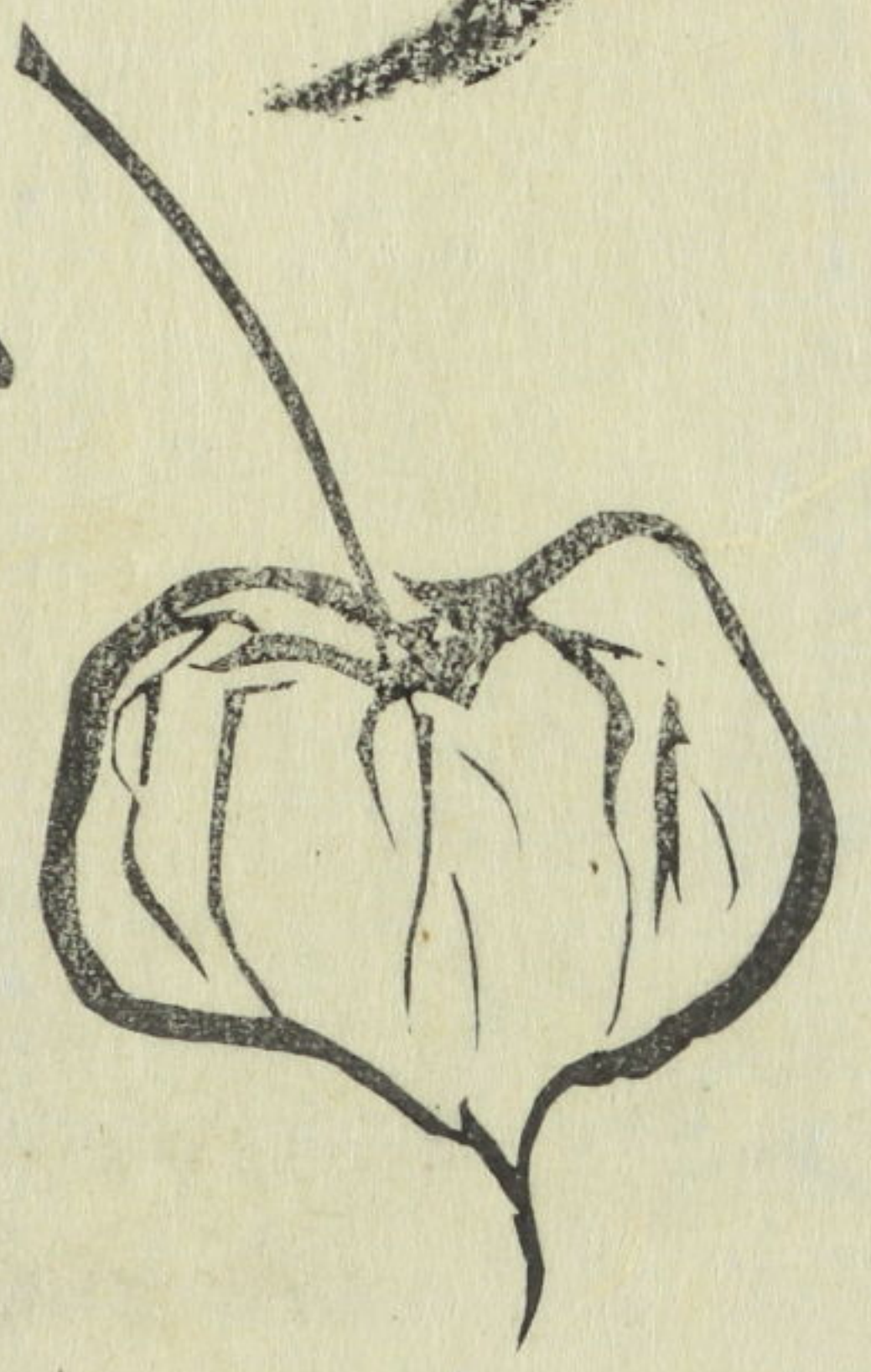
あせ



むー乃

小ま

かむろ



一

植

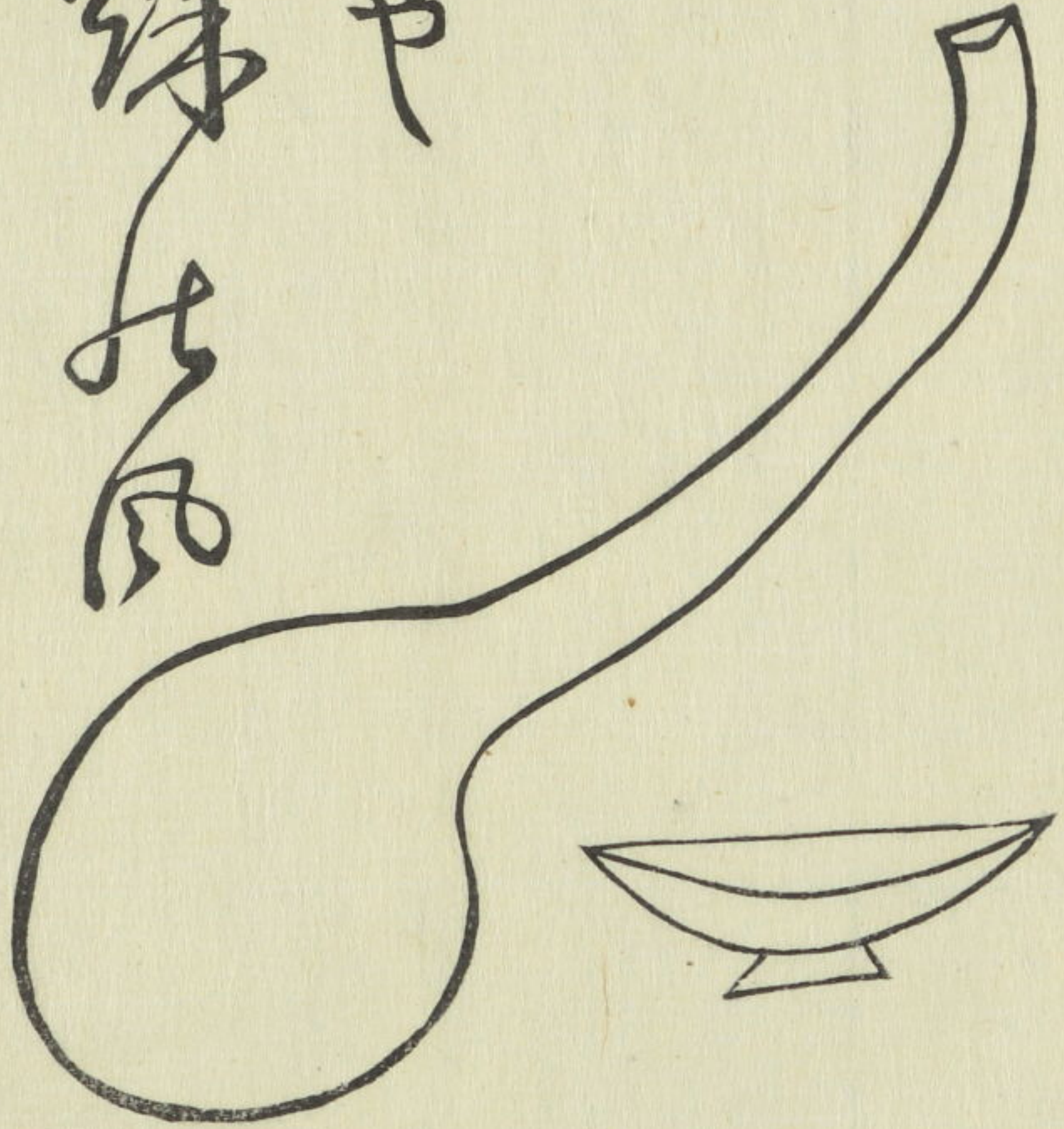
天目

松

み

鉢

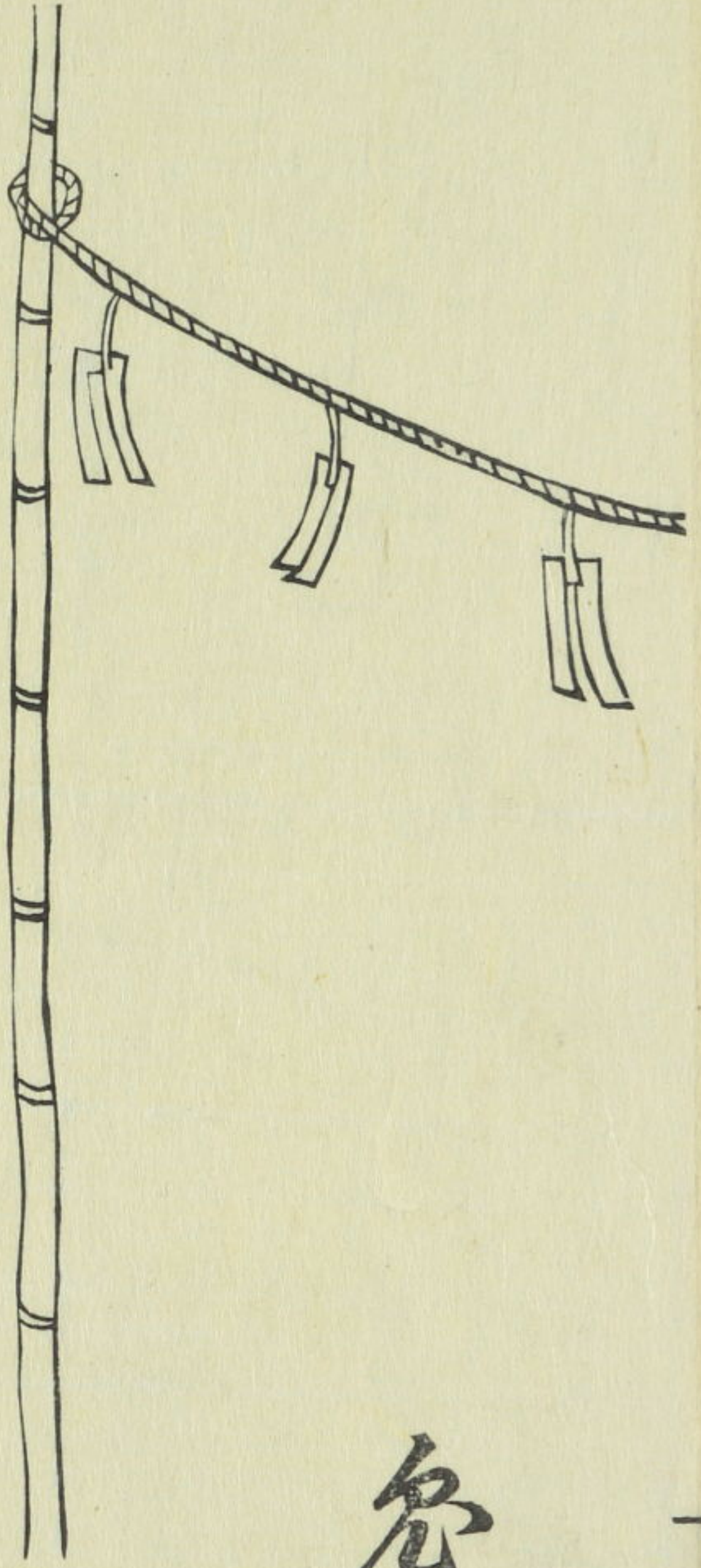
江州吉田鉢瓦島



子

取

角力



急

鹿
 加
 留
 與
 乃
 安
 久
 乾
 之
 和

浪花
 鷗
 里
 圖
 印

子健
 圖
 之



あはれ秋の山
あはれ日秋の山

以東
和月
室



1111

朝の光に

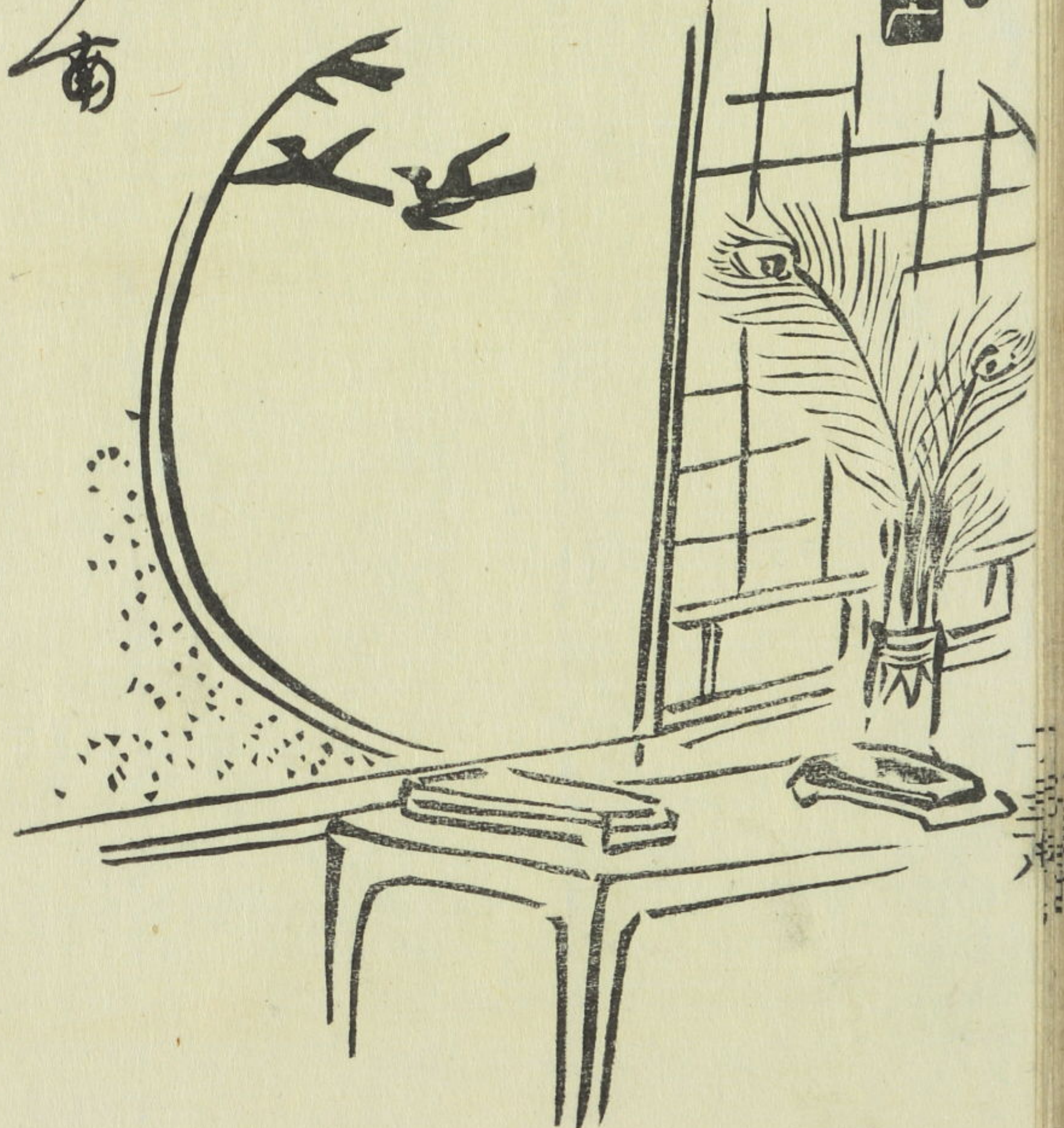
ひかり

あけぼの

あけぼの

あけぼの

其の
後



障あり

弓の葉乃や空

瓦此夜

千
彩
雨
羽

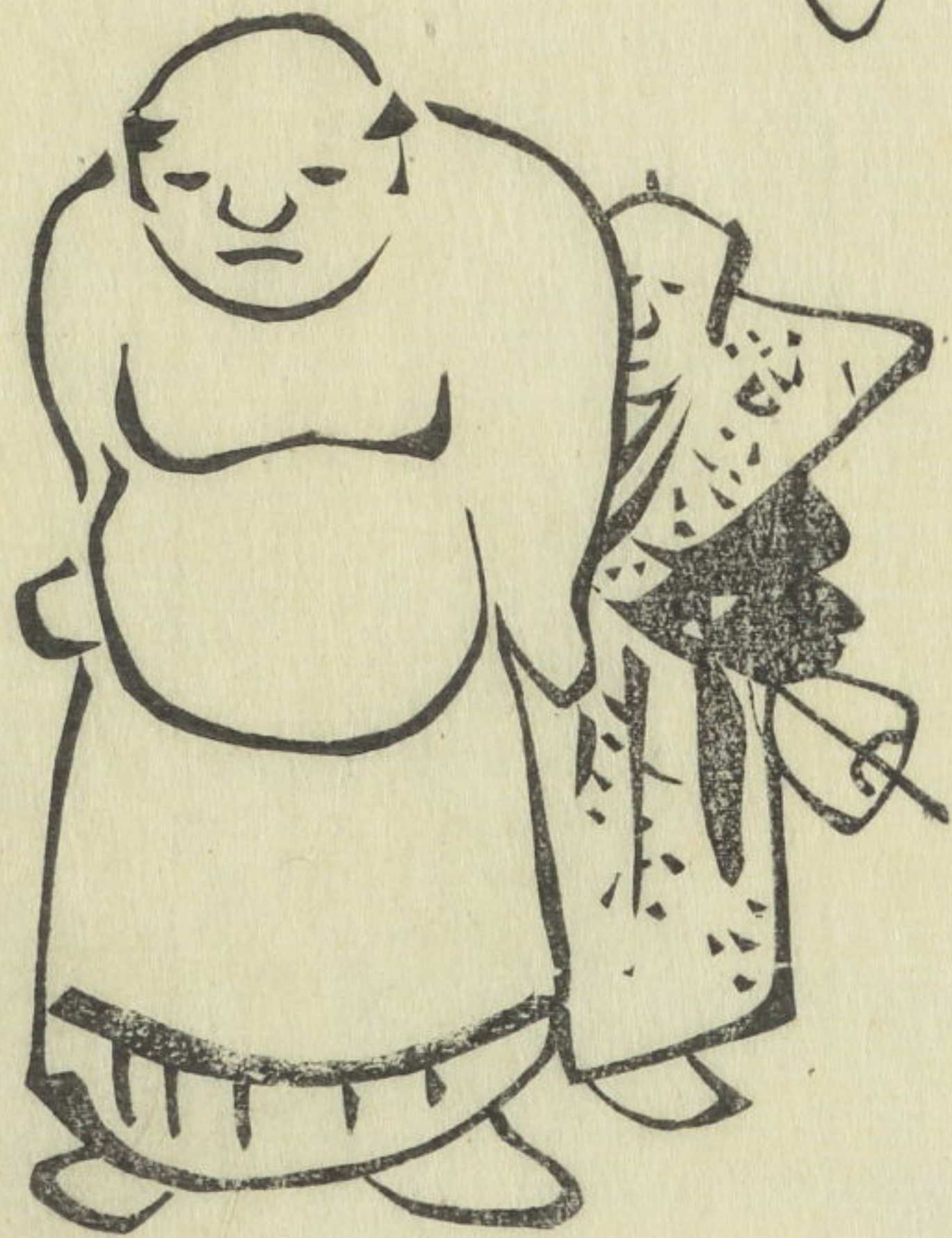


武家の也

月の

かりけ

了
裸



山
丈



一
樹

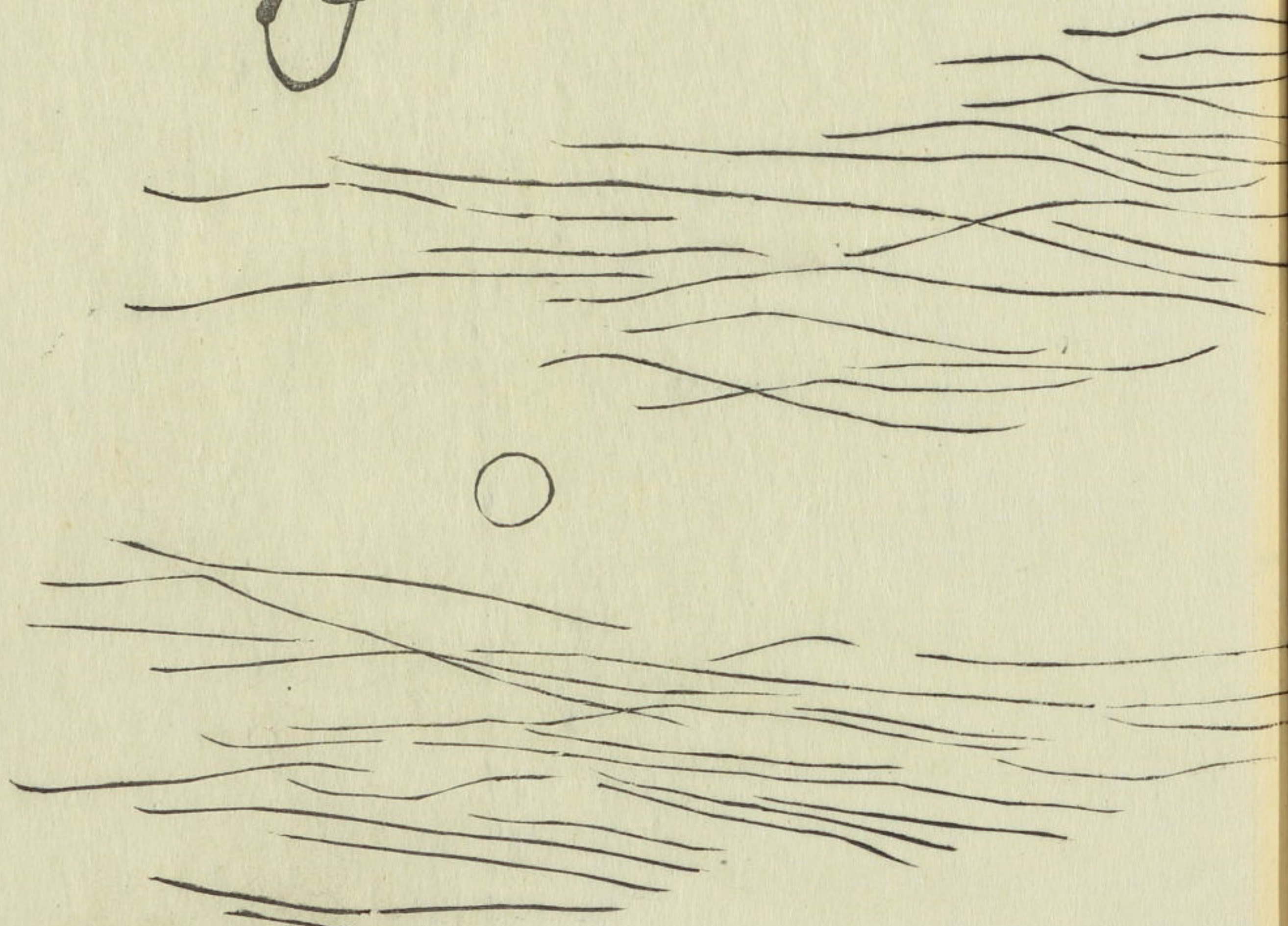
嵯麻

月の後の

湖一

河多

寒し



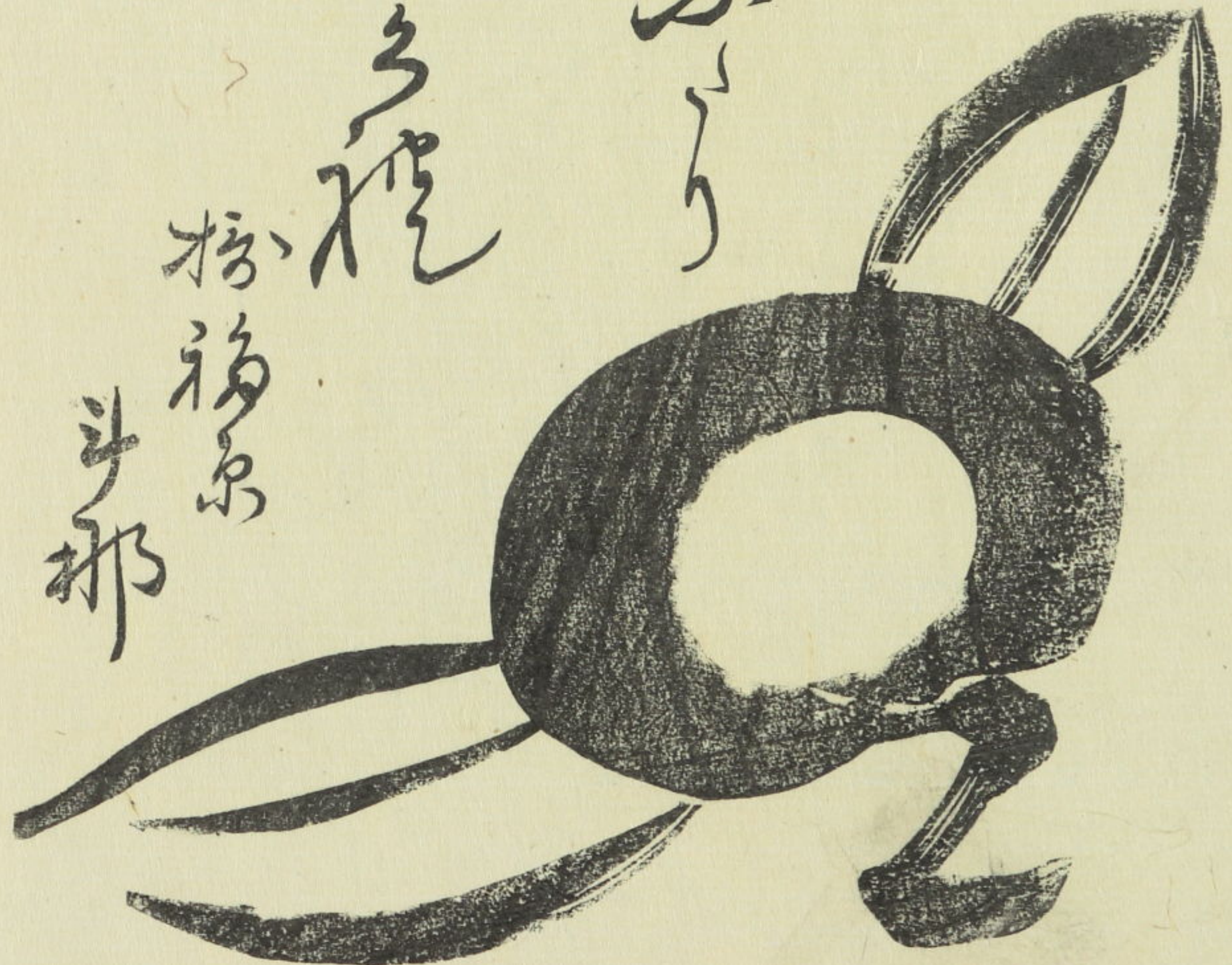
水馬と

にまふら

秋此之禮

福泉

斗那



湖の
うさぎ

うさぎ

うさぎ

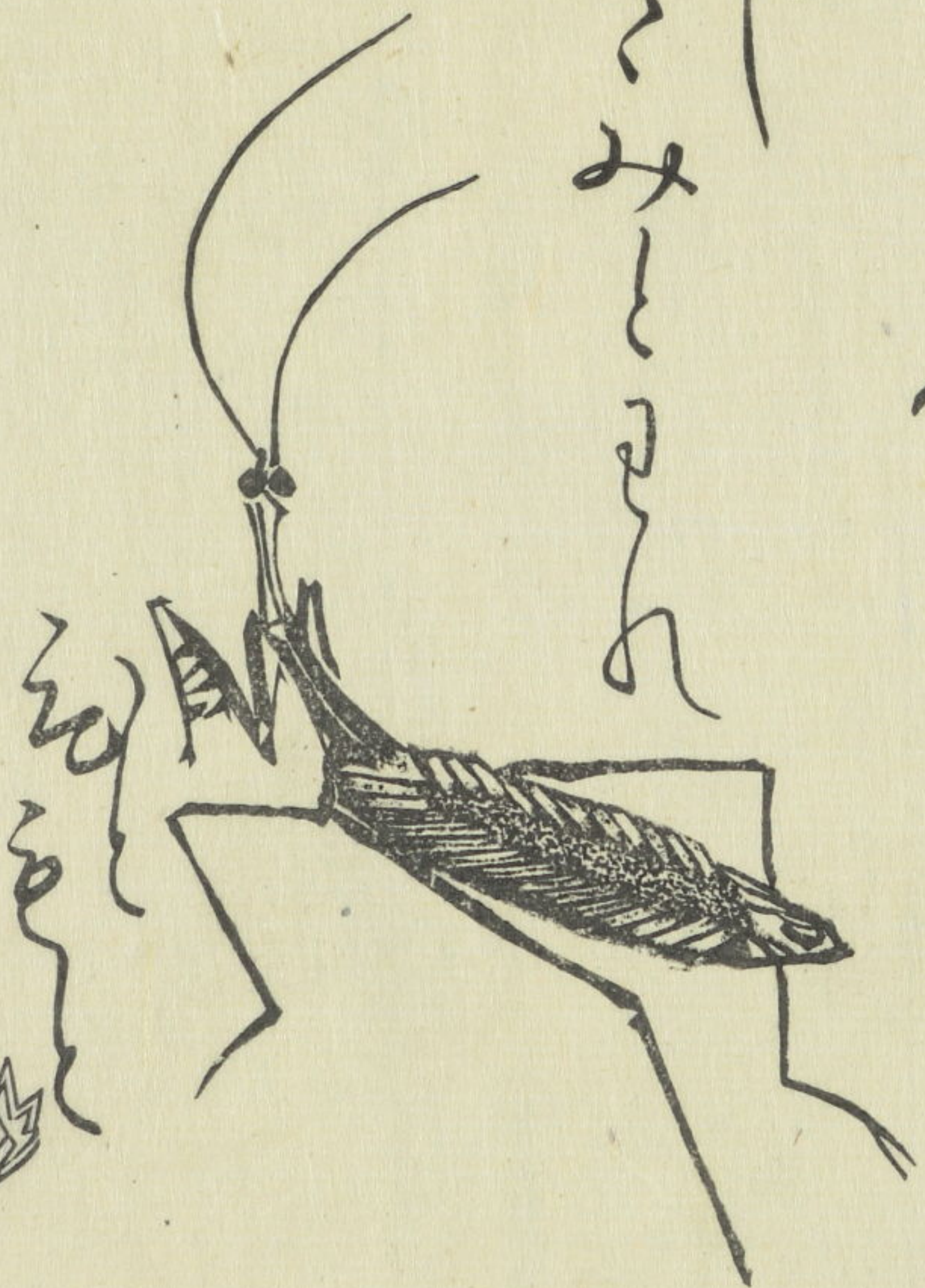
うさぎ



うさぎ

七夕乃あか

うさぎ



うさぎ



うさぎ

あふ
中よいら

あふ
あふ

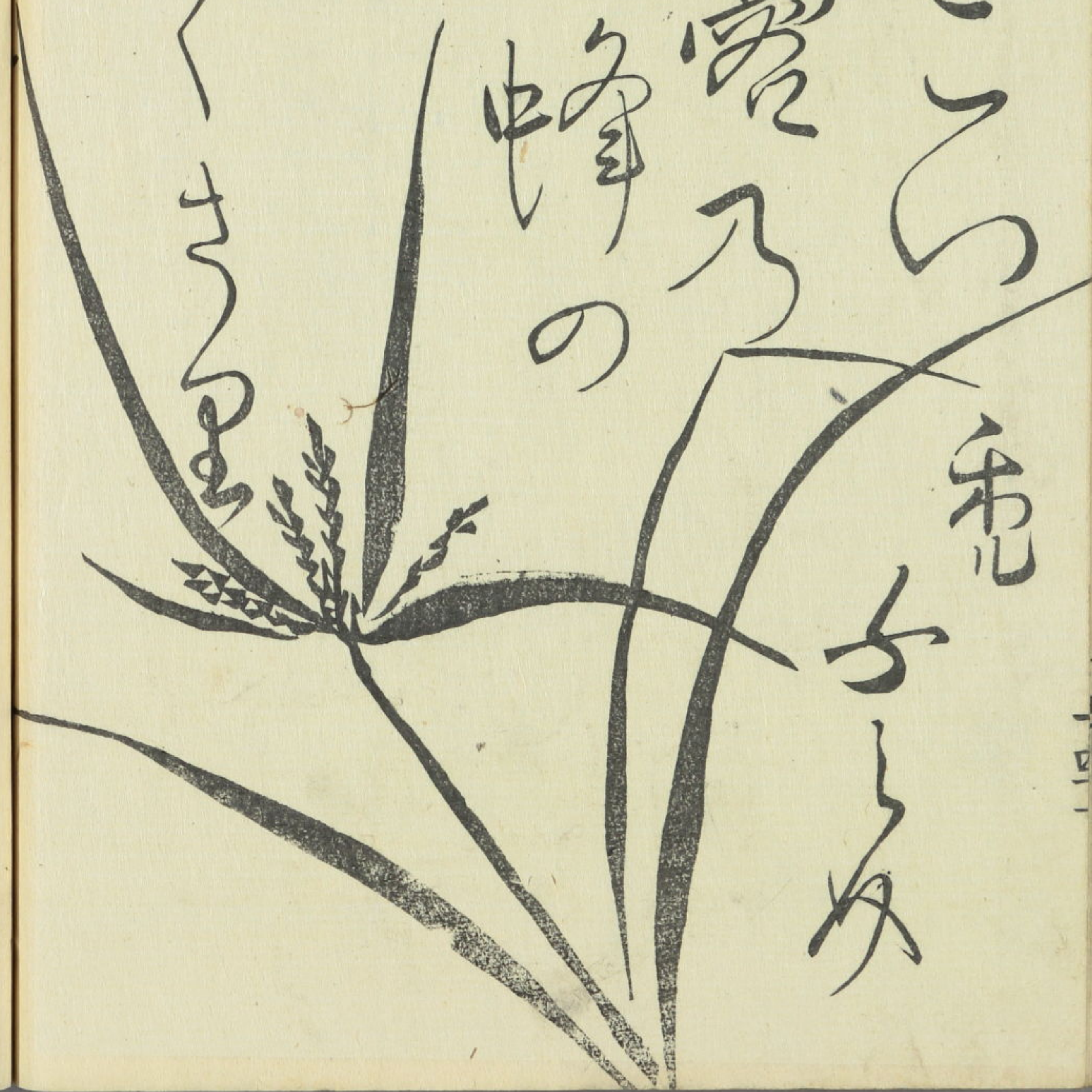
あふ
あふ

あふ

あふ

あふ

あふ



あふ

あふ

あふ

あふ

あふ



あふ



秋之聲


女節

とら貞

あはれ

毎夜天も

常乃錢のちのちの岩つるの草
 逸人

六のすのこのとも
 けちるの草
 女節

夜神樂や月子
 飛走る玉
 玉散
 嵯麻

磯岩やんはくしのかき口

おえ

茶の花水 在る

子橋

梅りて咲

多るる

又る

るる

おのりて

るる

少年

陸四郎

錦切心ま晴ハ猫の夢

少年乙五郎

月乃牙ハ給ハ踊ハ鉢叩

おの女

おの平ハ歌あはは佳ゆらにて

西室の夢

宿也 たる月とらるる
し 枕の道へ越 秋意

風也 掃とそ 後に 翠松 奇山

おる 空の とも なる 風也
鳥の 帰る 家
也 夢

松 風 ぬる 風
おる 葉の とも なる 也
法 上 卯

松 風 の こも 也 枯 跡 の
夕 づ け
射る 一 盞

冬 結 露 花 也
た ち ち の 水 ぬ せ ぬ 心 也
法 給 山 嵐

朝子 鳴子 鳴子 神子 自治丸 策

ほろろの 成治 百英

はらり 成治 乃

さし 成治 乃

さし 成治 乃

よろろ 成治 乃

はらり 成治 乃

祐治 乃

乃

水仙乃首飾浪華一室浪華の南

浪華山

にそちか

此の目よこしく松の枝白浪華を白

何とのよらふ

日暮

事一室しりの又

松風の安とせんよ水口太極海老

那も所ふ哉

一舟よまの海を雪の正家外浪華自來

ゆよむらむい

あはれぬ海に

浪華

山吹乃枯し 葦をり 細代也 水口 和交

そよ風

木の葉のるり 浪也

降みしる

心のみ

うら

浪ウチ 五中

煉るる山吹も 木乃 浪花 三

あしあけの葉の力おち

正美

よのり

と博雪をく 小

小徒の世をさ

三

水口 廣義

冬枯乃 枯乃 枯乃 枯乃

如香の袖子 枯乃 枯乃

冬枯乃 枯乃 枯乃 枯乃

冬の枯乃 枯乃 枯乃

枯乃 枯乃 枯乃

冬枯乃 枯乃 枯乃

冬枯乃 枯乃 枯乃

冬枯乃 枯乃 枯乃

三山田

十有廿二日

江戸

子守歌

白くも中もええて月夜しの女

舟の海一浪もくまらぬ

針もぬ

枯木も冬に花

江戸

得江

春も空も

浦島

流石とて能く知る事

一功の忠見えりその物こゝろ 徳丸

鯨世

夜あけしり新よええ鹿冬月

帆乃まぐさ 梅鼻

るしあめ山北時雨り

有みふま 世平へ位えりき 李豊

浪也 實字

あゝせし屋有みまきとむ境に水

知多 一尊

重れ日乃 大子先

人 若あいき

蒼鳥の羽の 小善こうま 紅

十月廿二日 知常女

はやくしを杖より

くらふは

むいりり

あひのちりり

新密林とんのかき今粒の香
佳笠

洛
橋 價人

寫しあはのの松の香るる

茶の湯の香るる
三カ、
有嶽

洛女

土糸

煉けるもろこ

もりのよちち

平安 輕舟

木舟は地は必は鳴場

鳴る所と

之くしよ相を補

十二
すふ深

いゝとれと口を

けしめ入 柳根

青

死なや 今夏にさるる

うらとあるあ 涼
根米

月也者雪

水ひの 毎の音

蘆秀

青の葉のふ草方水葉

白鈴

山家らむやさくともく日夕
石尾

早云の日記

小原を

日夕の日記

抄

ちよとく 婦由り

袖垣をさのふ出年きり

清和宗一 蘭岱

あらの旭

あらの旭

桂

大しや終るぬ

備立

いものばら乃存

ぬらぬるち

一 ぬらぬるち

星譜

ナニハ

佛打中格如不

多百

此之管此有

一轉と端し運るを此に

我竟

新在何日忘月すく言ふ
山義

外塘小横白輝く寒さの角假樂

少さくもあふ
括、神原木下

え白くあふを人

身をもすを命
此大

猫の来り
此

